

# がん検診の実施状況及び 精度管理について



京都府健康対策課がん対策係

(令和4年2月28日 令和3年度生活習慣病検診等管理指導協議会)

# 第2期京都府がん対策推進計画 (平成30年3月～)

## 第2期京都府がん対策推進計画の全体目標・分野別施策

### 全体目標

がんを予防し、早期発見・早期治療でがんで亡くなる人を減らす

患者本位の適切な医療を実現し、がん患者およびその家族の苦痛や精神的不安の軽減ならびに療養生活の質の維持向上

がんになっても安心して暮らせる社会の構築

### 分野別施策

#### 1. がん予防・がん検診の強化

【1次予防:がんのリスクの減少】  
①がん教育・がんの正しい知識の普及啓発  
②たばこ対策  
③感染に起因するがん対策(ウイルス、細菌など)  
④食生活・生活習慣の改善

【2次予防:  
がんの早期発見、がん検診】  
①検診の受診率向上  
②精度管理・検診従事者の資質向上

#### 2. がん医療体制の整備・充実

①手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法の推進  
②緩和ケア・支持療法の推進  
③在宅医療の充実  
④連携体制の強化  
⑤小児がんへの対応の充実  
⑥ゲノム医療の普及  
⑦その他治療機能の充実  
⑧がん登録の推進

#### 3. がんとの共生社会の実現

①相談支援体制、情報提供体制の充実  
②就労支援の強化  
③社会的な問題への対応の充実  
④小児・AYA世代、高齢者に対する支援の強化

# 第2期京都府がん対策推進計画数値目標（がん検診）

数値目標	現状値	目標値（2023年度）
がん検診受診率 （参考：国民生活基礎調査、40歳以上69歳未満 ただし子宮頸がん検診は20歳以上69歳未満）	35.5～41.2% （2016年度）	50%
がん検診精検受診率 （参考：地域保健健康増進事業報告）	70.2～91.4% （2014年度）	100%
がん検診・特定健診のセット検診実施状況 （京都府健康対策課調べ）	—	全市町村
総合がん検診の実施状況 （京都府健康対策課調べ）	—	全市町村
がん検診評価のためのチェックリスト項目を80%充足している市町村数（参考：市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査）	—	全市町村
がん検診受診率向上・精度管理向上に関する人材の育成	—	150人

# がん検診部会の目的と内容

## 項目1：がん事業評価のためのチェックリスト遵守状況調査

(令和2年度の検診体制)

達成率(実施率)を5段階で評価。自己チェックの側面も大きい。

A:100%、B:90~99%(許容範囲)、C:70~98%(一部改善が必要)、

D:69%以下(改善が必要)、E:未回答 ※国の基準(都道府県毎に改変可)

## 項目2：精度管理指標数値の調査

(令和元年度受診率及び平成30年度プロセス指標)

評価基準は、厚生労働省「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」の許容値と目標値を使用。

- がん検診毎に状況確認し、原因や改善策を検討。
- 結果を報告市、必要に応じて個別に助言や追加調査を実施。
- 調査結果、評価結果等を京都府ホームページで公表。

# プロセス指標の意味と活用方法①

プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	許容値※1	目標値※1	各指標値の評価	備考
受診率	<p>検診を受けるべき対象者が、実際に検診を受けたかを測る指標</p> <p>【受診者数/対象者数×100】</p>	-	全て50%以上	高いことが望ましい	<p>【高値】 望ましい※2</p> <p>【低値】</p> <p>①対象者を把握していない（対象者の名簿が作成されていない）</p> <p>②受診勧奨を実施していない</p> <p>③検診の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）</p>
要精検率	<p>検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標</p> <p>【要精検者数/受診者数×100】</p>	<p>胃：11.0%以下</p> <p>大腸：7.0%以下</p> <p>肺：3.0%以下</p> <p>乳：11.0%以下</p> <p>子宮頸部：1.4%以下※3</p>	-	<p>対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要</p>	<p>【高値】</p> <p>①受診者が有病率の高い集団に偏っている</p> <p>②擬陽性が多い</p> <p>【低値】</p> <p>①受診者が有病率の低い集団に偏っている</p> <p>②偽陰性が多い</p>
精検受診率	<p>要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標</p> <p>【精検受診者数/要精検者数】×100</p>	<p>胃・大腸・肺・子宮頸部：70%以上</p> <p>乳：80%以上</p>	全て90%以上	<p>高いことが望ましい（精検受診率が100%近くなければ、がん発見率や陽性反応適中度を適切に評価できない）</p>	<p>【高値】 100%に近いことが理想</p> <p>【低値】</p> <p>①精検受診の有無について未把握が多い</p> <p>②精検結果の未把握が多い（もし精検を受診しても、その結果が把握出来ない場合は精検受診にカウントされない）</p> <p>③精検受診勧奨が適切でない</p> <p>④精検の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）</p>

# プロセス指標の意味と活用方法②

プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	許容値※1	目標値※1	各指標値の評価	備考
精検未受診率	要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標 【未受診者数/要精検者数×100】	胃・大腸・肺・子宮頸部：20%以下 乳：10%以下	全て5%以下	低いことが望ましい (精検受診率が100%近くなければ、がん発見率や陽性反応適中度を適切に評価できない)	【高値】 ①精検の受診勧奨が適切でない ②精検の提供体制が不十分（キャパシティ、悪アセス） 【低値】0%に近いことが理想（ただし、精検見把握率が高い場合には、見かけ上未受診率も低くなることに注意）
精検未把握率	精検受診の有無や精検結果が、適切に把握されたかを測る指標 【未把握者数/要精検者数×100】	全て10%以下	全て5%以下	低いことが望ましい (精検受診率が100%近くなければ、精検受診率、未受診率、がん発見率、陽性反応適中度を適切に評価できない)	【高値】 ①精検受診の有無について未把握が多い ②精検結果の未把握が多い（もし精検を受診しても、その結果が把握できない場合は精検受診にカウントされない） 【低値】0%に近いことが理想
がん発見率	その検診において、適正な頻度でがんを発見出来たかを測る指標 【がんであった者/受診者数×100】	胃：0.11%以上 大腸：0.13%以上 肺：0.03%以上 乳：0.23%以上 子宮頸部：0.05%以上※4	-	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	【極端に高値】 受診者が有病率の高い集団に偏っている 【低値】※5 ①受診者が有病率の低い集団に偏っている ②偽陰性が多い

# プロセス指標の意味と活用方法③

プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	許容値※1	目標値※1	各指標値の評価	備考
陽性反応適中度	その検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標（検診の精度を測る指標） 【がんであった者/要精検者数×100】	胃：1.0%以上 大腸：1.9%以上 肺：1.3%以上 乳：2.5%以上 子宮頸部：4.0%以上※4	-	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	【極端に高値】 受診者が有病率の高い集団に偏っている 【低値】※5 ①受診者が有病率の低い集団に偏っている ②偽陰性が多い

- ※1 出典：厚生労働省 がん検診事業の評価に関する委員会報告書「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について（平成20年3月）」ただし、受診率の目標値については、厚生労働省がん対策推進基本計画（平成30年3月）
- ※2 がん検診によって死亡率を減少させるためには、検診の質を高く保つことが第一の条件で、その上で受診率を上げていく必要がある。つまり、受診率を上げることも重要だが、それ以上にその他の指標（特に精検受診率）の改善が重要。
- ※3 子宮頸がん検診の要精検率は近年増加傾向にあり、国の許容値を満たしていない都道府県が増加。要精検率増加の一因として、国の補助事業の無料クーポン券導入（2009年）の影響が考えられる。無料クーポン券の配布対象は原則はじめて受診する人で、この事業開始後に若年の受診者が増えていることが分かっている。このことから、近年罹患率の高い集団が多く受診するようになり、その結果、要精検率が増加傾向にあることが考えられている。ただし、その原因はまだ明確に特定されておらず、今後の検討課題である。
- ※4 「地域保健・健康増進事業報告」の様式が改定され、H25年度までの報告では「上皮内がん」として「がんで会った者」に計上されていたものが、H26年度以降の報告では「CIN3」として計上されるようになった。
- ※5 陽性反応適中度とがん発見率は、「精検受診率が低い場合」、「自治体の精検結果の把握状況に漏れがある場合」正確に評価できない。

# 京都府のがん検診の状況（R3年度検診実施況）

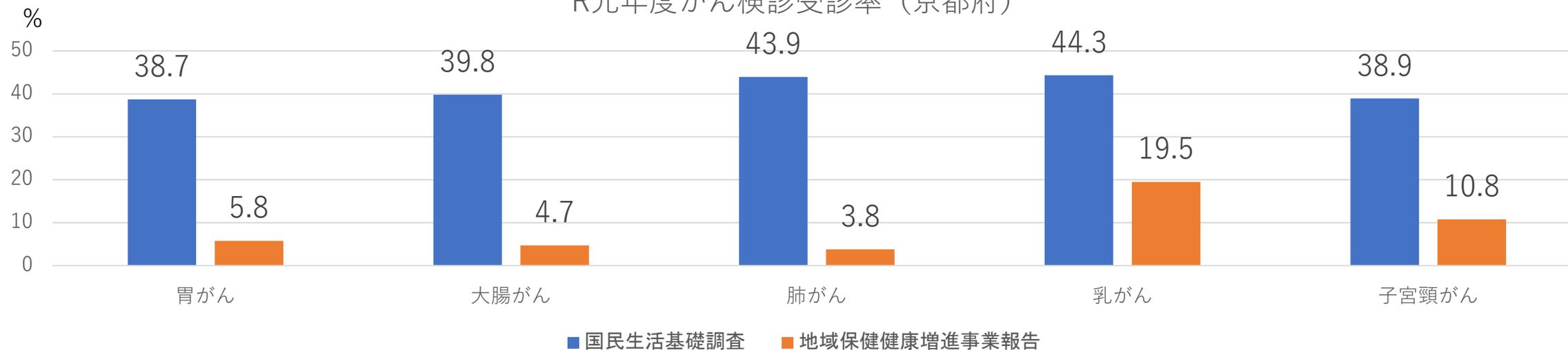
R3年度	検査方法		検査方式		備考（課題・現状等）
			集団	個別	
胃がん	胃X線検査	26	25	1	受診率が全国と比較しても低い。
	胃内視鏡	3	0	3	導入に向けて各市町村で検討中
肺がん	胸部X線＋喀痰細胞診	26	26	0	個別方式はゼロ。導入には精度管理が課題。
大腸がん	便潜血二日法	26	21	16	精密検査受診率が低い。
乳がん	マンモグラフィ	23	19	19	R3指針の改正により、集団方式では一定の条件のもと医師の立ち会いが不要になった。
	マンモ＋視触診	3	0	3	
	エコー	0	0	0	R3より、京都市においてエコー検診が廃止
子宮頸がん	頸部細胞診	26	13	25	

※京都府内検診実施自治体数（N=26自治体）

※参考資料集2 P65 令和3年度市町村がん検診＜実施内容と実施時期＞

# がん検診受診率には2種類ある

R元年度がん検診受診率（京都府）



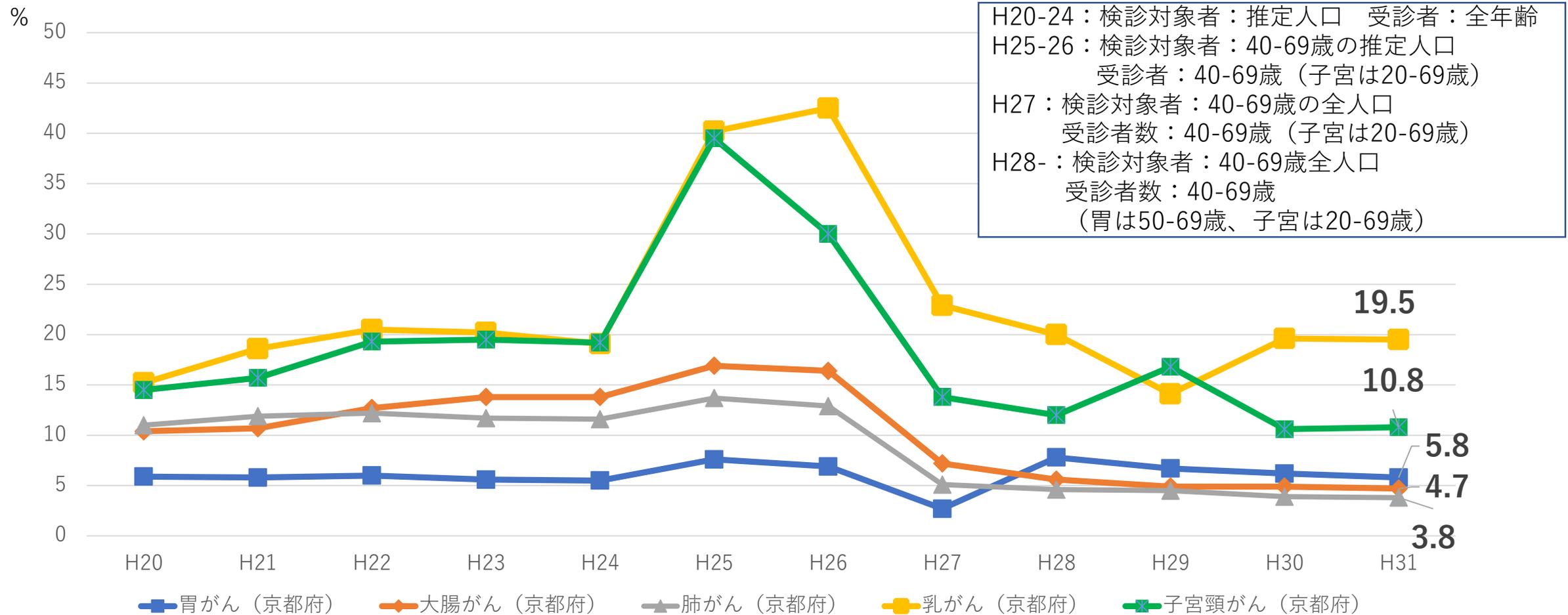
## 国民生活基礎調査

抽出された世帯に対する質問票で把握した**推計値**。指針外の検査法も対象となる。がん対策推進基本計画の評価指標。3年に1度の調査。

## 地域保健健康増進事業報告

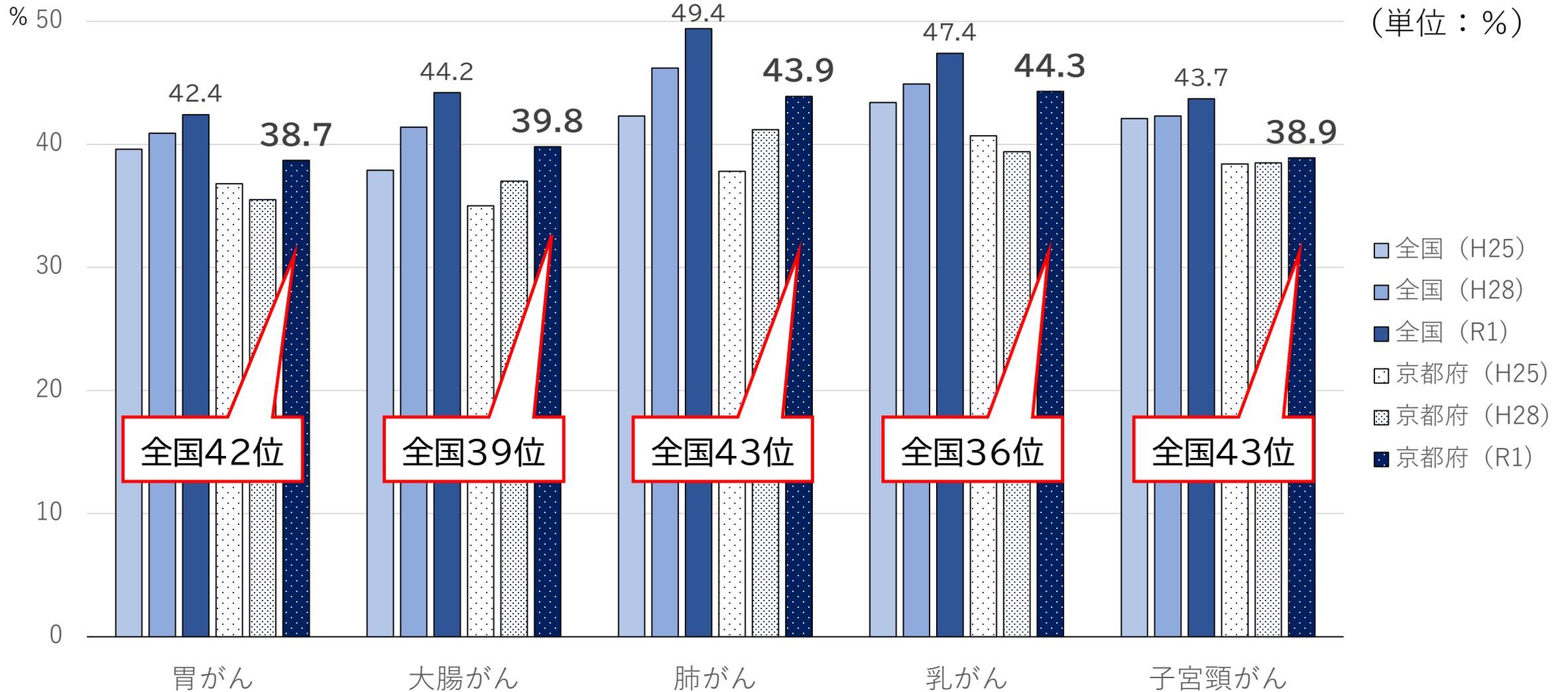
自治体を実施している対策型検診を受診した**実測値**。職場や人間ドックで受診した人は含まれない。毎年の調査。

# 京都府のがん検診受診率の推移（地域保健健康増進事業報告）



受診率の算定方法が年々変わっているので、単純に比較が出来ない点に注意が必要

# 京都府と全国のがん検診受診率（国民生活基礎調査）



# プロセス指標まとめ (H30年度)

	胃がん (集団 ・X線)	胃がん (個別 ・内視鏡)	大腸がん (集団)	大腸がん (個別)	肺がん (集団)	乳がん (集団)	乳がん (個別)	子宮頸がん (集団)	子宮頸がん (個別)
受診率<R元年度> ( )は全国値	5.8 (7.8)		4.7 (7.7)		3.8 (6.8)	19.5 (17.0)		10.8 (15.7)	
要精検率	6.4% (11%以下)	7.1% (11%以下)	6.1% (7.0%以下)	7.4% (7.0%以下)	2.4% (3.0%以下)	4.7% (11%以下)	6.9% (11%以下)	1.6% (1.4%以下)	3.0% (1.4%以下)
精検受診率	85.1% (70%以上)	66.7% (70%以上)	71.0% (70%以上)	69.6% (70%以上)	86.3% (70%以上)	93.9% (80%以上)	93.5% (80%以上)	81.0% (70%以上)	73.6% (70%以上)
精検未受診率	8.4% (20%以下)	33.3% (20%以下)	17.3% (20%以下)	11.0% (20%以下)	8.8% (20%以下)	3.3% (10%以下)	4.5% (10%以下)	9.5% (20%以下)	22.9% (20%以下)
精検未把握率	6.5% (10%以下)	0.0% (10%以下)	11.7% (10%以下)	19.3% (10%以下)	4.9% (10%以下)	2.7% (10%以下)	2.0% (10%以下)	9.5% (10%以下)	3.4% (10%以下)
陽性反応適中度	1.5% (1.0%以上)	12.0% (1.0%以上)	2.9% (1.9%以上)	3.7% (1.9%以上)	0.8% (1.3%以上)	6.3% (2.5%以上)	4.7% (2.5%以上)	0.7% (4%以上)	0.7% (4%以上)
がん発見率	0.10% (0.11%以上)	0.85% (0.11%以上)	0.18% (0.13%以上)	0.27% (0.13%以上)	0.02% (0.03%以上)	0.30% (0.23%以上)	0.32% (0.23%以上)	0.01% (0.05%以上)	0.02% (0.05%以上)

※要精検率～がん発見率の下段は許容値

※プロセス指標は74歳以下、受診率は69歳以下

※参考資料集2 P9-20

# R2市町村チェックリスト<全体の傾向>

- ◆全体的にみて、例年と同様の傾向（全国平均よりやや低い）
- ◆市町村により、達成率のばらつきが大きい。
- ◆検診対象者・受診者の精度管理、検診結果・精密検査結果の把握と受診勧奨、受診率、要精検率の把握  
→どの検診においても、達成率が高い
- ◆検診機関の質の担保、がん発見率、陽性反応適中度、早期がん割合等の把握  
→どの検診においても、比較的達成率が低い

# R2検診機関チェックリスト<全体の傾向>

- ◆昨年度と比較して改善傾向。（Q2,Q5を除いて、ほぼ全て達成）
- ◆未達成項目は下記の内容。
  - 要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度のプロセス指標の把握  
→検診機関により差が見られる。
  - 検診結果の通知（肺がん）
  - 検体が不適正との判定を受けた場合の対応（子宮頸がん）
  - がん発見例の、過去の細胞書件の見直し（子宮頸がん）
  - 細胞診業務の委託機関名を仕様書に明記（子宮頸がん）

# R2都道府県チェックリスト

## <目的>

都道府県が、市区町村や検診機関の体制や検診データを把握し、適切な精度管理を行っているかを評価するもの。都道府県が自己点検を行うことも目的。

## <京都府の結果>

- ・5大がん全てについてB評価  
(H30,R1年度と同様)  
(A評価は福井県のみ、E評価はなし)

☆本部会の結果は、資料も含め、  
京都府ホームページに公開しています。

## <参考>過去のチェックリストの結果

3-1. 都道府県別の総合評価（胃がん検診・集団検診）

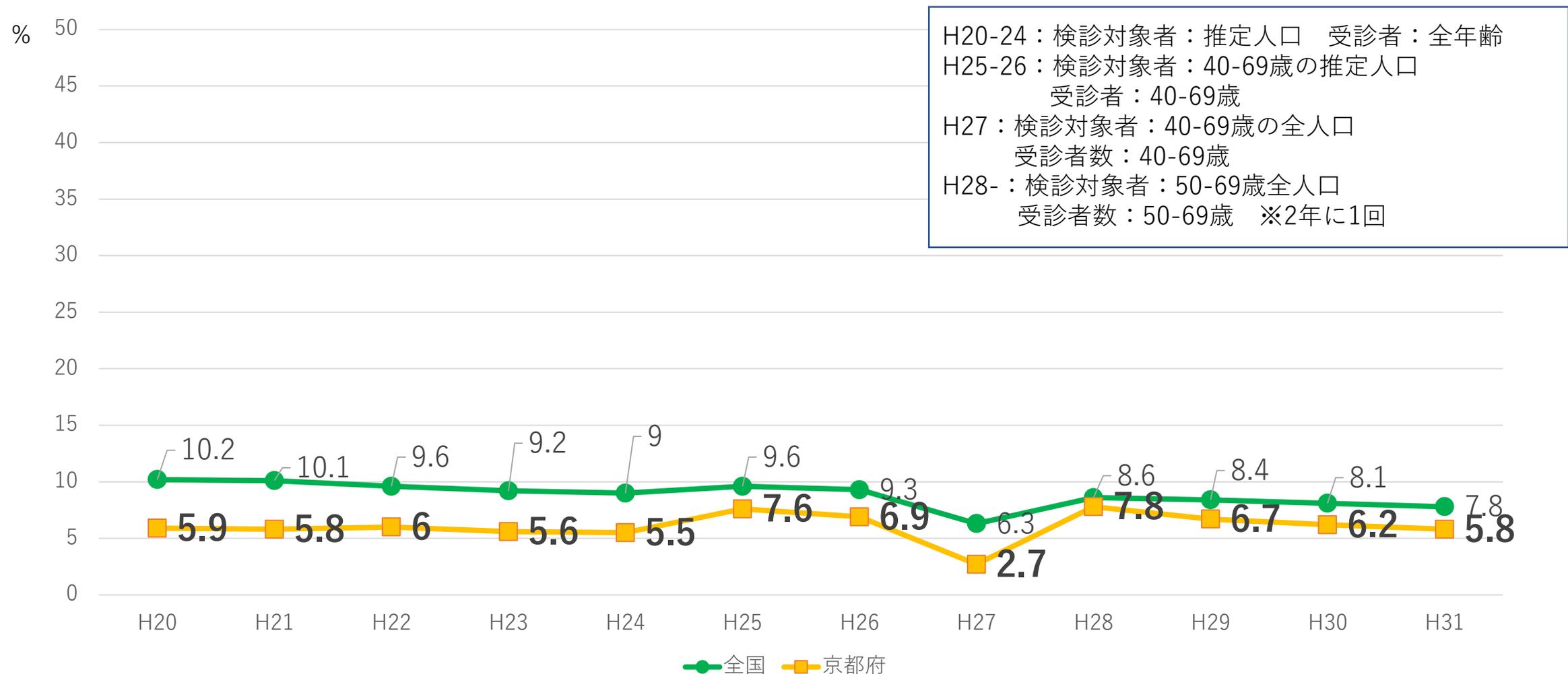
赤枠内は要改善の都道府県を示す

		調査2 胃がん部会の開催状況、および精度管理評価結果の公表状況							合計
		部会開催済					開催予定なし		
		公表状況					公表準備中		
	A	B	C	D	公表準備中		E		
調査1 都道府県別 用チェック リストの 遵守状況	A	1 福井	-	-	-	-	-	-	1
	B	-	11 宮城、山形、茨城、群馬、新潟、石川、大阪、徳島、佐賀、鹿児島、沖縄	6 福島、千葉、山梨、長野、岐阜、島根	4 富山、滋賀、鳥取、山口	1 京都		-	22
	C	1 栃木	3 秋田、岡山、長崎	3 広島、熊本、宮崎	8 北海道、岩手、山梨、神奈川、愛知、奈良、愛媛、大分	3 三重、香川、高知		2 青森、和歌山	20
	D	-	-	-	3 東京、静岡、福岡	-		1 兵庫	4
	E	-	-	-	-	-		-	0
合計	2	14	9	15	4		3	47	

# 1 胃がん検診

項目	内容
対象者	50歳以上（当分の間、胃部エックス線検査に関しては、40歳以上に実施しても可）
検診間隔	2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査に関しては、年1回の受診も可）
検診項目	問診に加え、胃部エックス線検査もしくは、胃内視鏡検査のいずれか
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	40～69歳の受診者。検診対象者は、同年代の全人口。 2年連続受診者は差し引いて算出。
府内の状況（R3年度）	◆胃部エックス線検査単独 23市町村（全て集団方式） ◆胃部エックス線検査と胃内視鏡検査併用 3市町村（胃部エックス線検査：2市町村は集団方式、1市町村は個別方式、胃内視鏡検査：3市町村とも個別方式）
H30年度 受診者数とがん発見数（40～74歳）	胃部エックス線検査（受診者数 <b>24,458人</b> 、がん発見数 <b>24人</b> ） 胃内視鏡検査（受診者数 <b>1,061人</b> 、がん発見数 <b>9人</b> ）

# 胃がん検診受診率の推移



# R2胃がん検診（エックス線） 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞

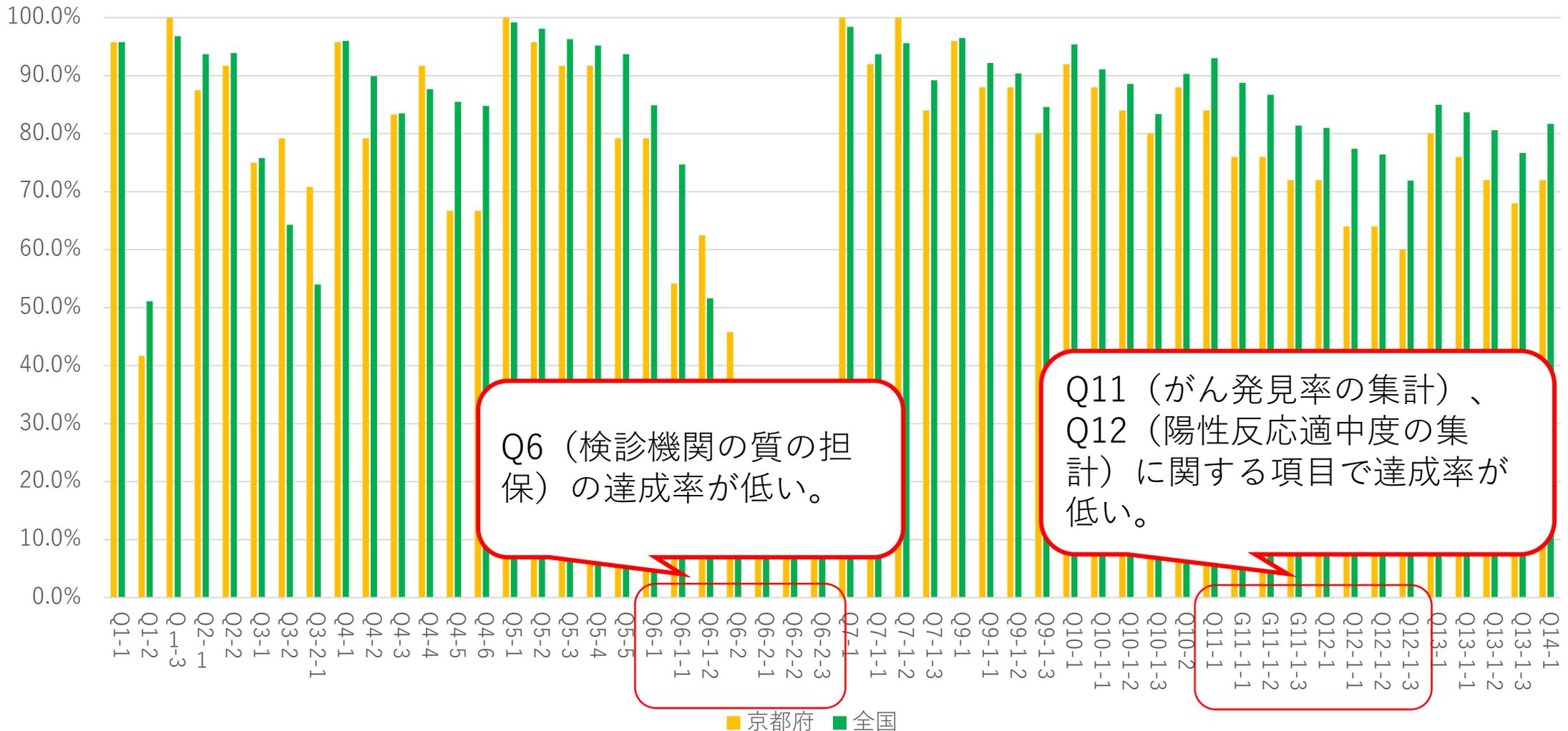
基準 A：100% B：90～99%（許容範囲内） C：70～89%（一部改善が必要） D：69%以下（改善が必要） E：未回答



＜出典＞地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査（エックス線は、久御山町のみ個別方式、他は集団方式。）

※参考資料集 2 P24

# R2胃がん検診（エックス線・集団方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>



Q6（検診機関の質の担保）の達成率が低い。

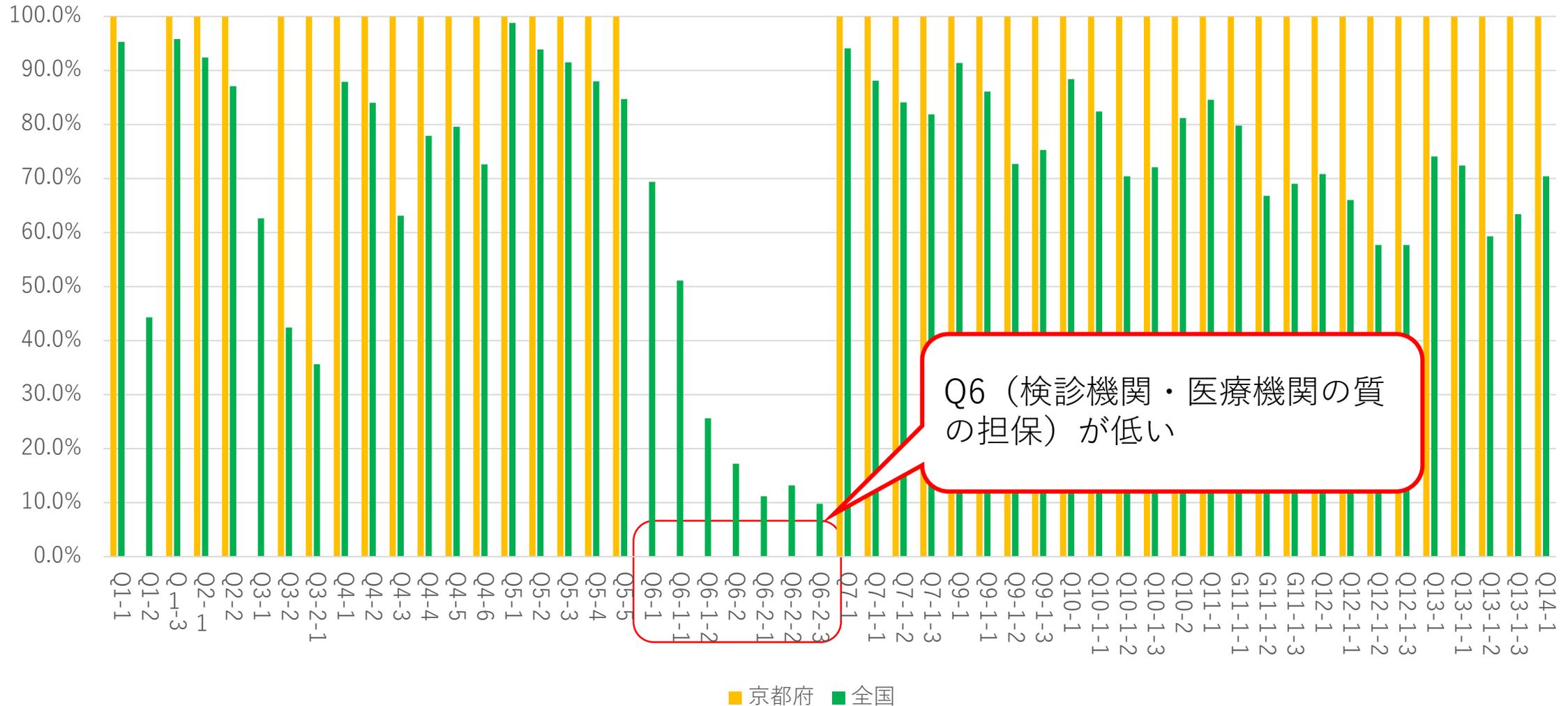
Q11（がん発見率の集計）、Q12（陽性反応適中度の集計）に関する項目で達成率が低い。

Q6-1-1

Q11-1-1

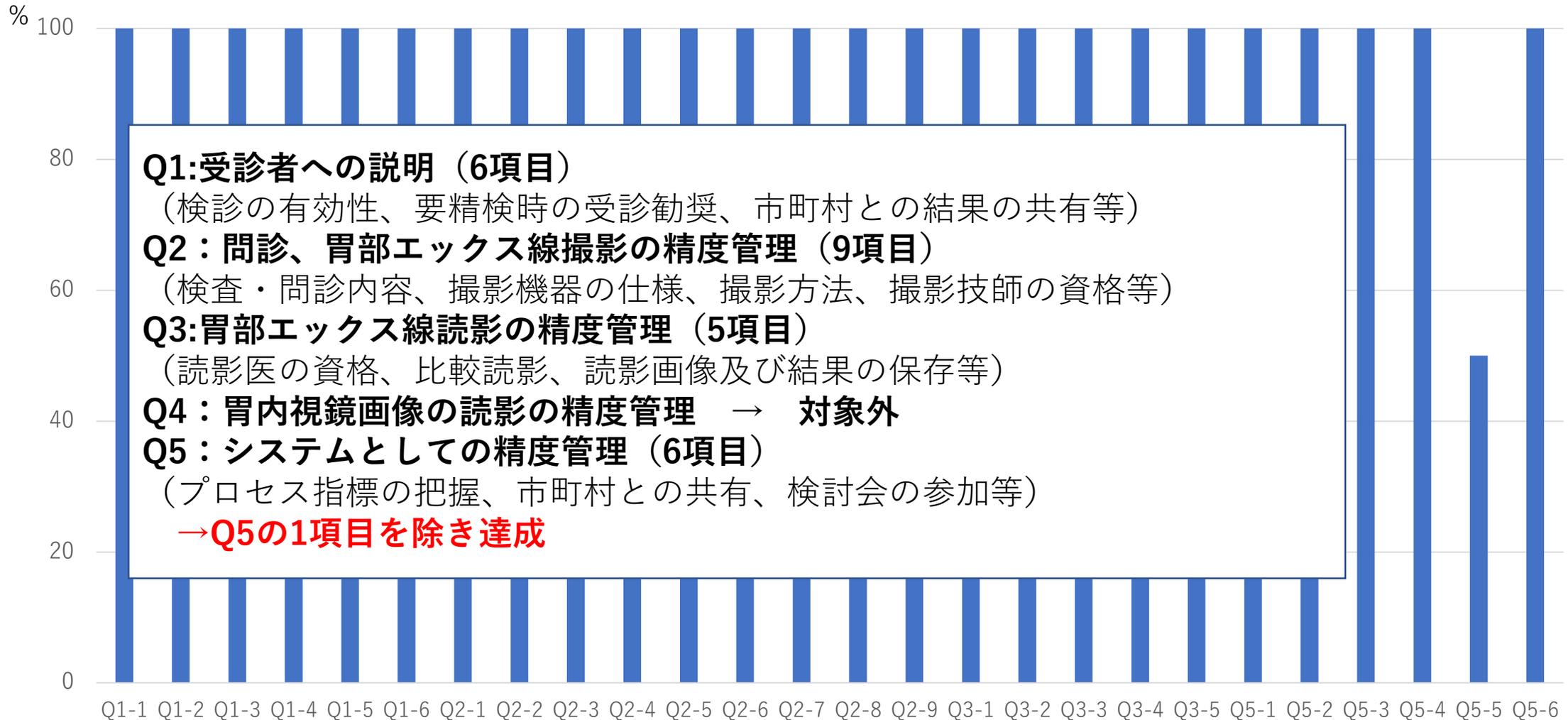
■ 京都府 ■ 全国

# R2胃がん検診（エックス線・個別方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>

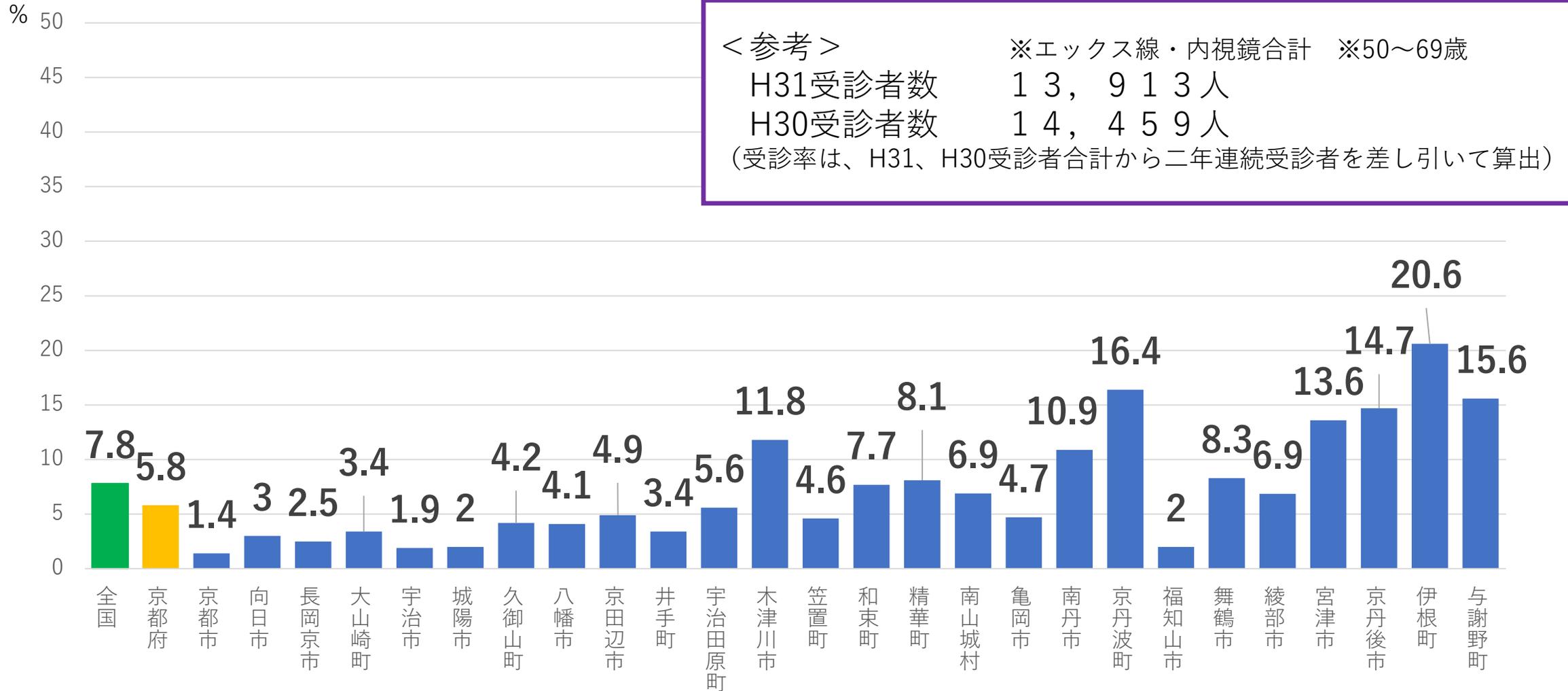


Q6（検診機関・医療機関の質の担保）が低い

# R2胃がん検診（エックス線） 検診機関チェックリスト達成率



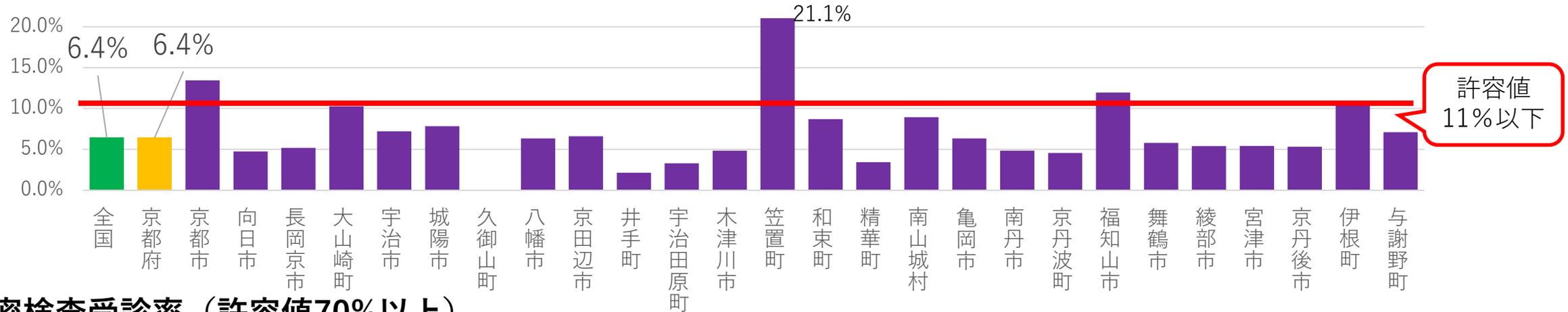
# H31胃がん検診（エックス線・内視鏡）受診率



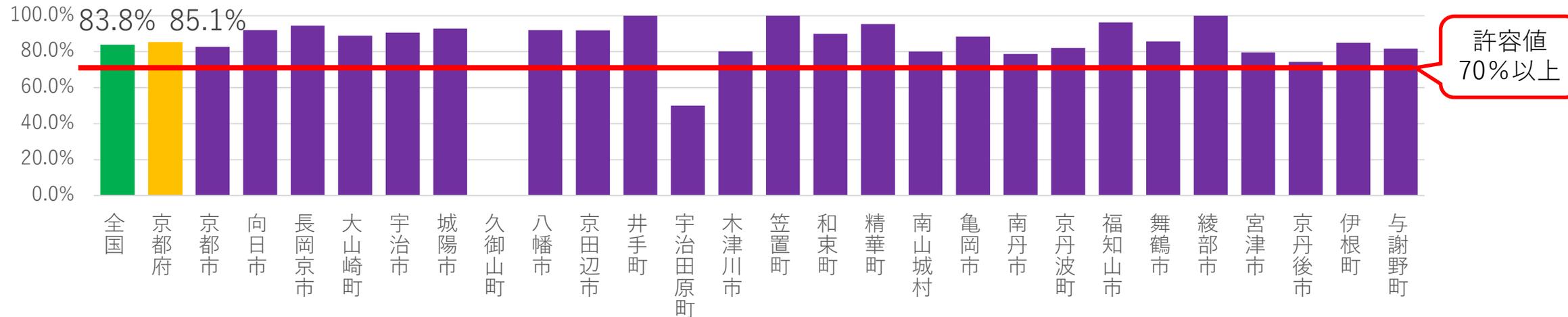
# H30胃がん検診（エックス線）市町村プロセス指標①

要精検率（許容値11%以下）

対象受診者数：24,458人 がん発見数：24人（40～74歳）



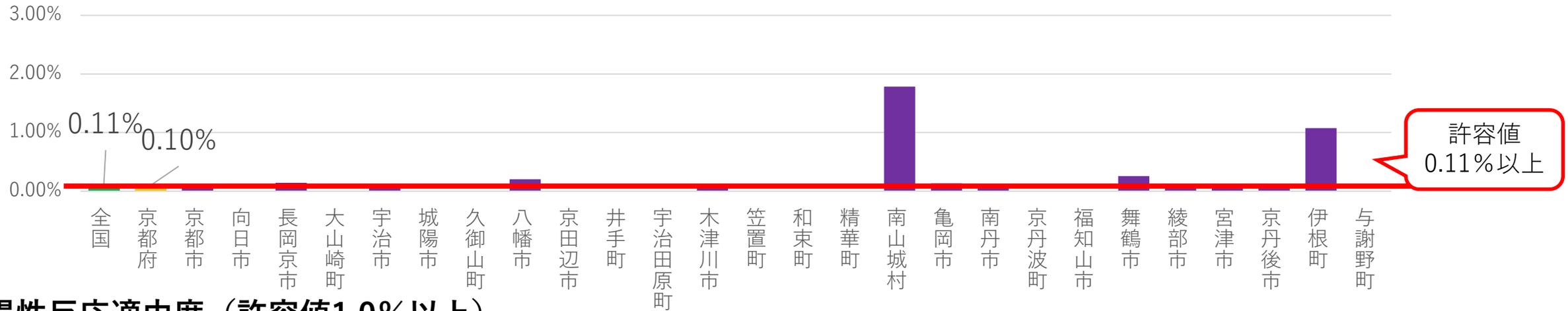
精密検査受診率（許容値70%以上）



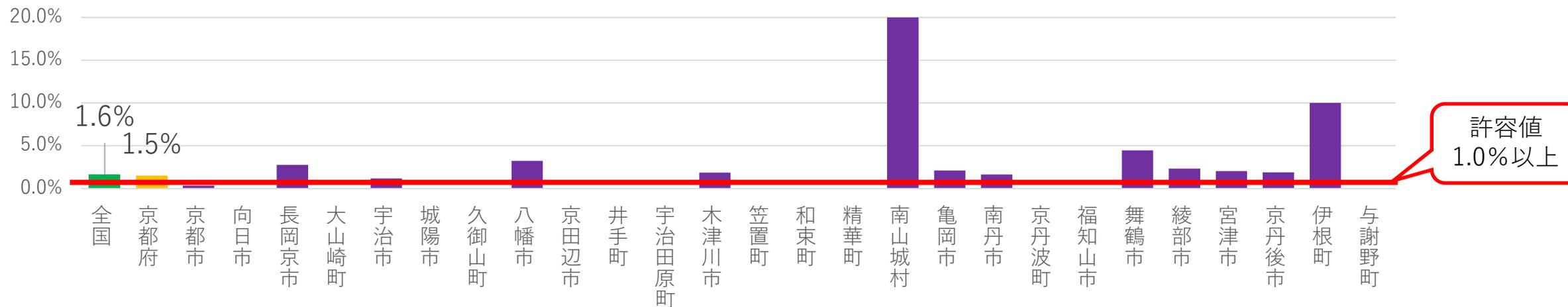
# H30胃がん検診（エックス線）市町村プロセス指標②

胃がん発見率（許容値0.11%以上）

対象受診者数：24,458人 がん発見数：24人（40～74歳）



陽性反応適中度（許容値1.0%以上）



# H30胃がん検診（内視鏡）市町村プロセス指標①

## 要精検率（許容値11%以下）

対象受診者数：1,061人 がん発見数：9人（40～74歳）



## 精密検査受診率（許容値70%以上）



# H30胃がん検診（内視鏡）市町村プロセス指標②

## がん発見率（許容値0.11%以上）

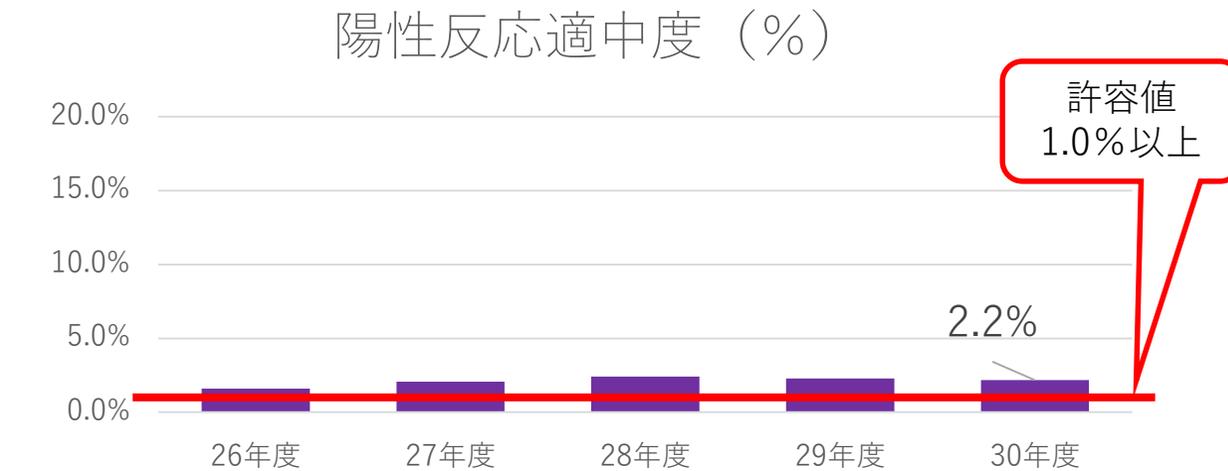
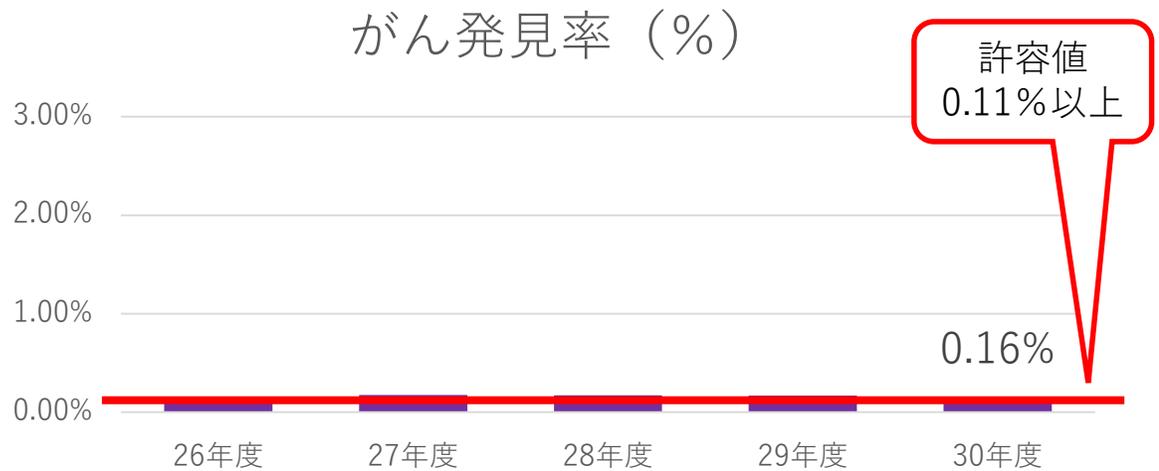
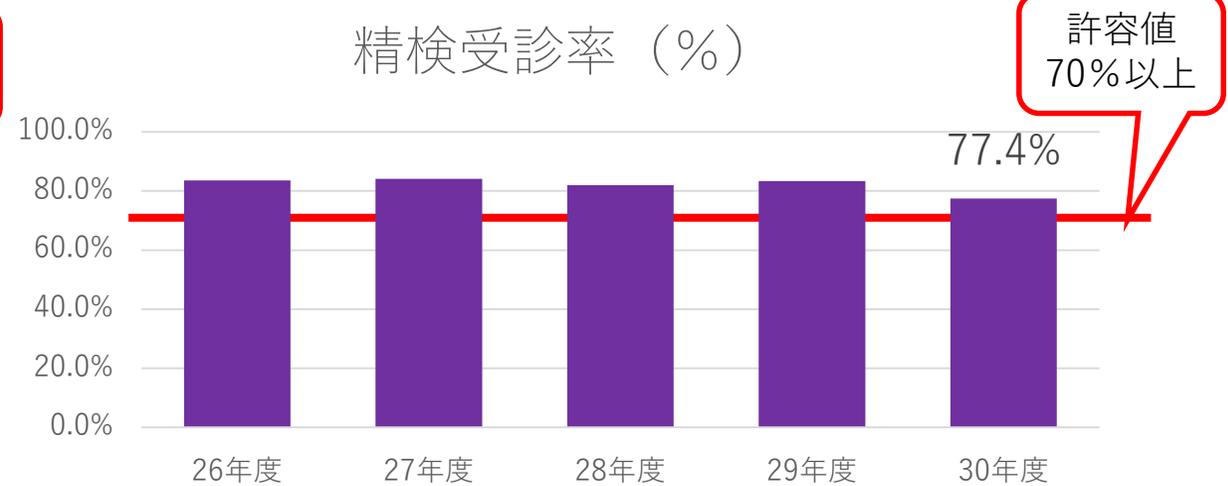
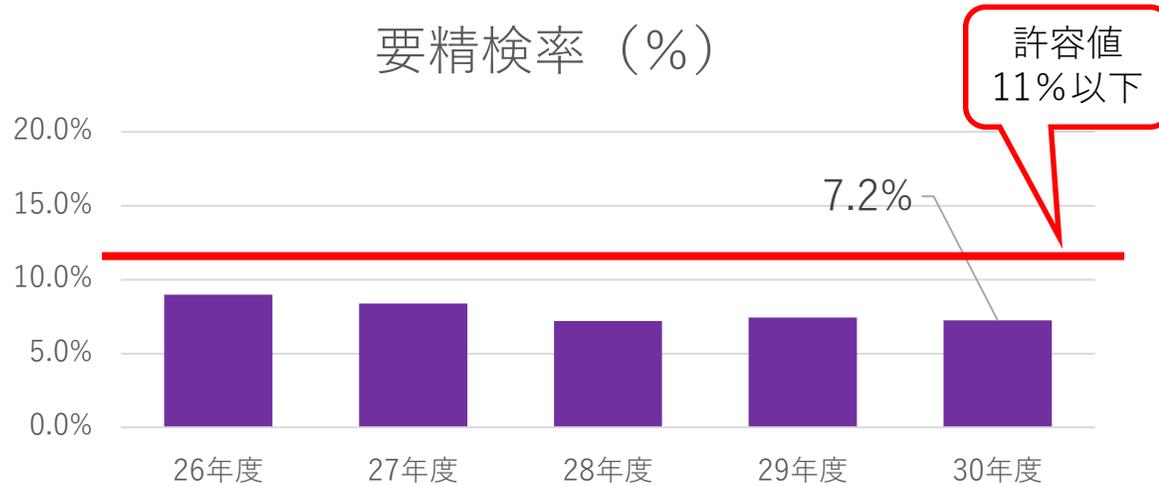
対象受診者数：1,061人　がん発見数：9人（40～74歳）



## 陽性反応適中度（許容値1.0%以上）



# H30胃がん検診（エックス線） 検診機関プロセス指標

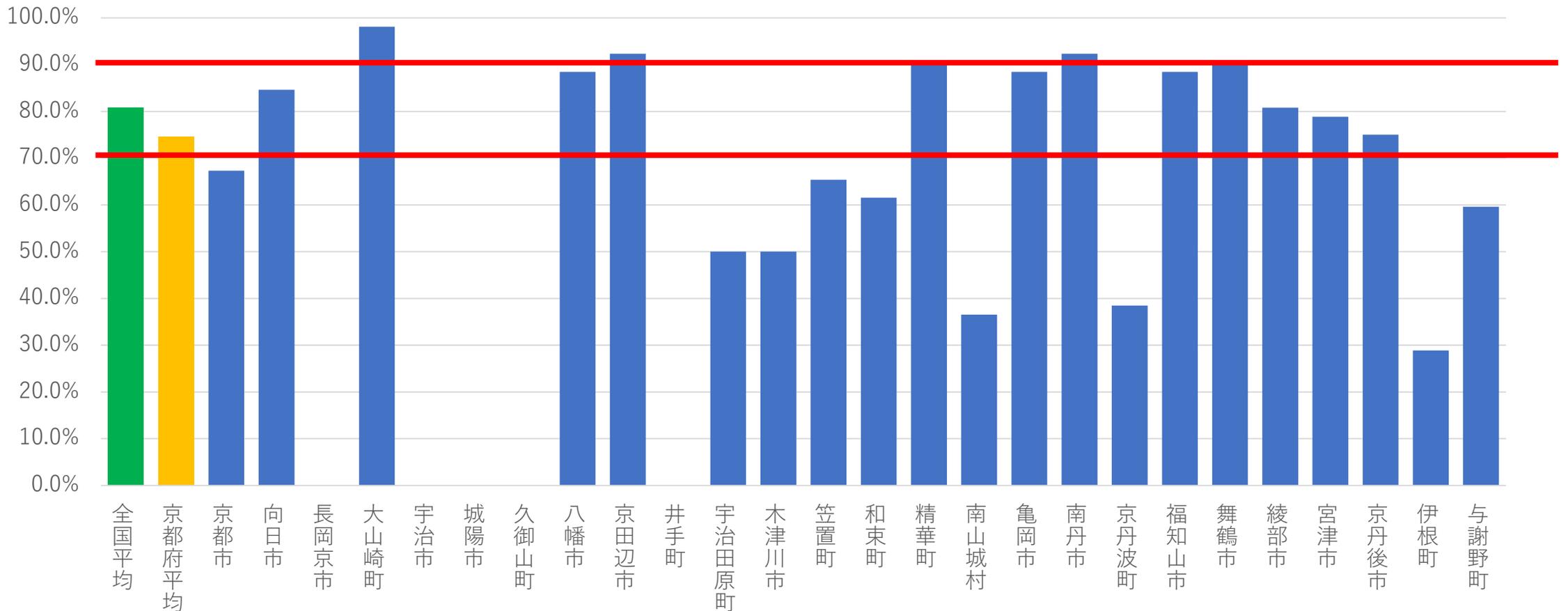


## 2 大腸がん検診

項目	内容
対象者	40歳以上
検診間隔	1年に1回
検診項目	問診及び便潜血検査（2日法）
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	40～69歳の受診者。検診対象者は、同年代の全人口。
府内の状況（R3年度）	◆集団方式 21市町村 ◆個別方式 16市町村
H30年度受診者数とがん発見数（40～74歳）	集団方式（受診者数 <b>44,895人</b> 、がん発見数 <b>79人</b> ） 個別方式（受診者数 <b>26,458人</b> 、がん発見数 <b>72人</b> ）

# R2大腸がん検診（集団方式） 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞

基準 A：100% B：90～99%（許容範囲内） C：70～89%（一部改善が必要） D：69%以下（改善が必要） E：未回答

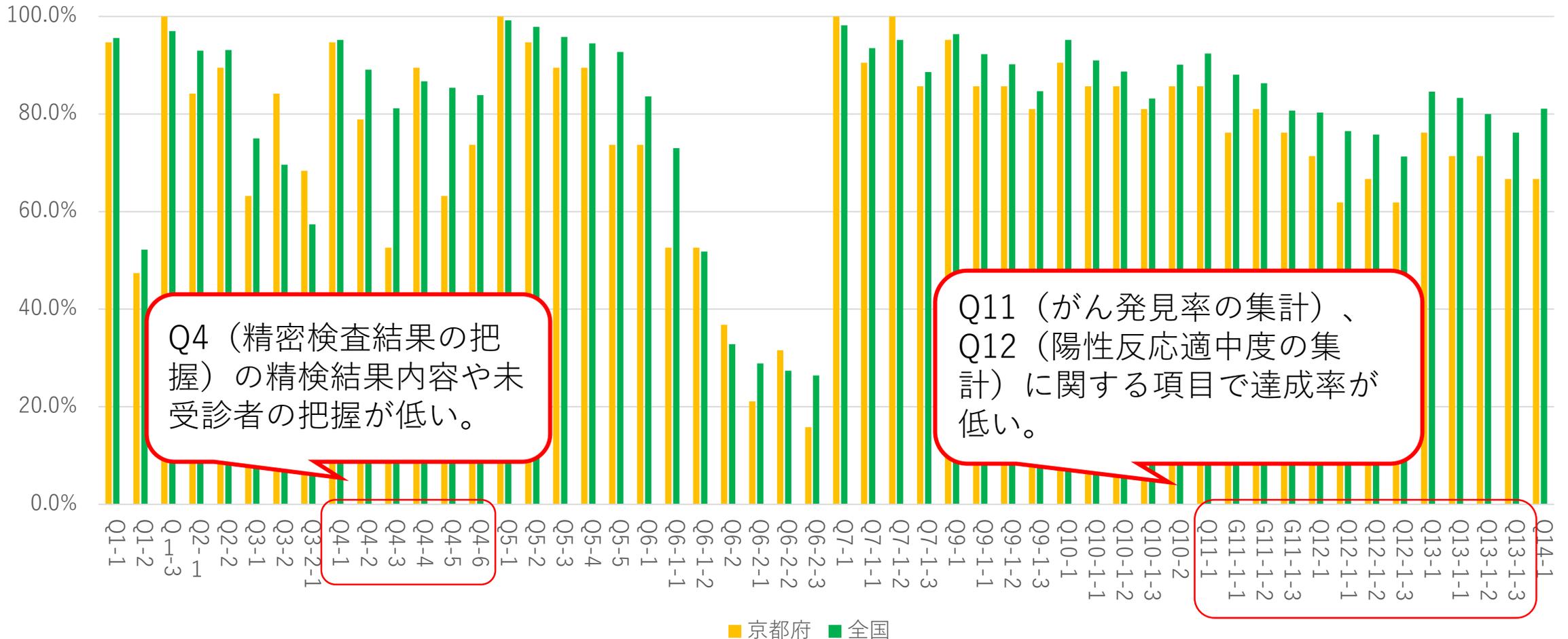


# R2大腸がん検診（個別方式） 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞

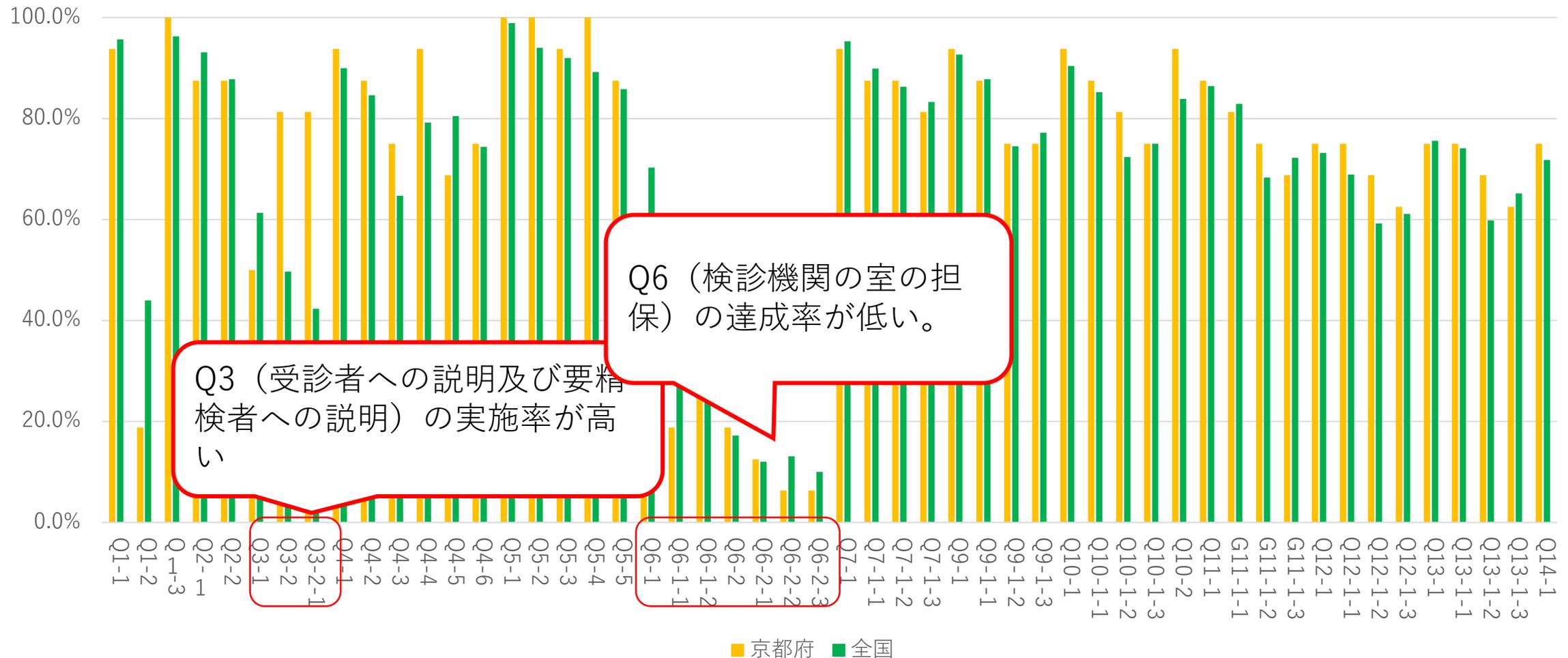
基準 A：100% B：90～99%（許容範囲内） C：70～89%（一部改善が必要） D：69%以下（改善が必要） E：未回答



# R2大腸がん検診（集団方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>



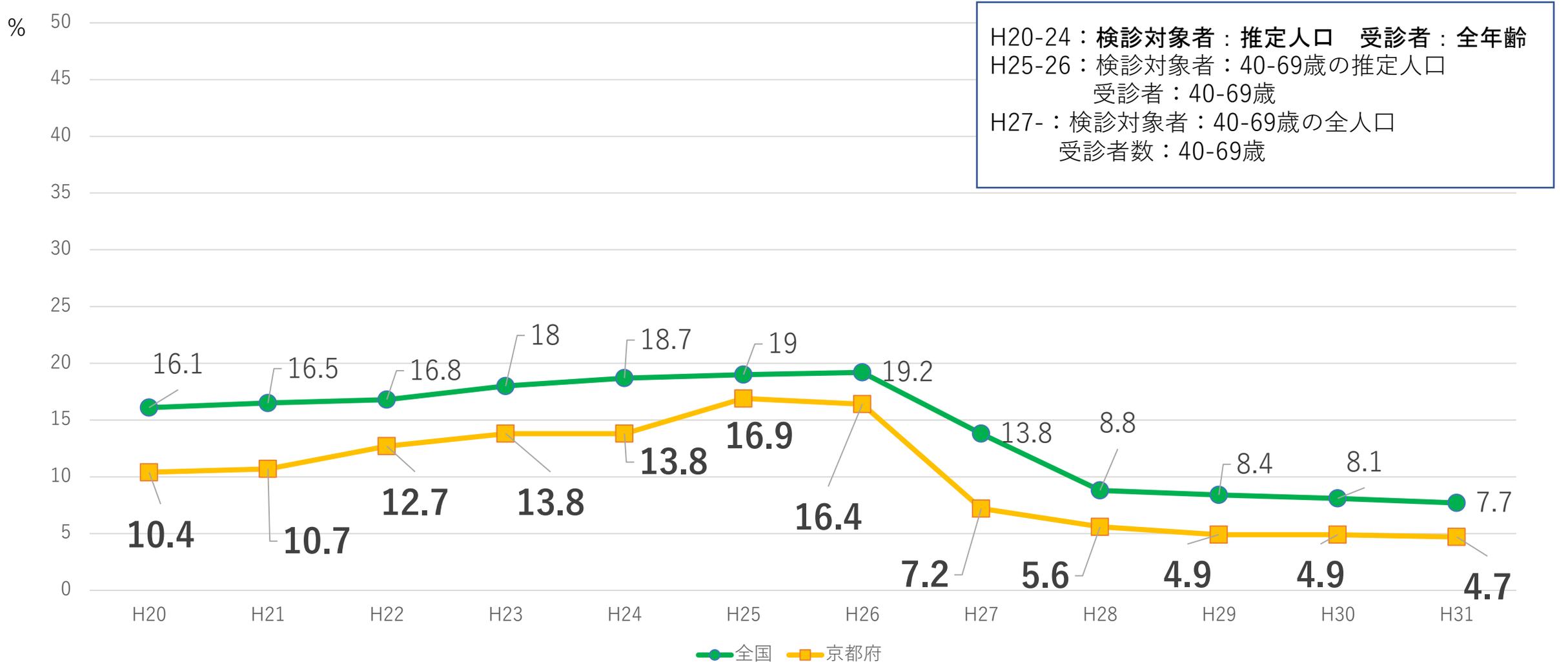
# R2大腸がん検診（個別方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>



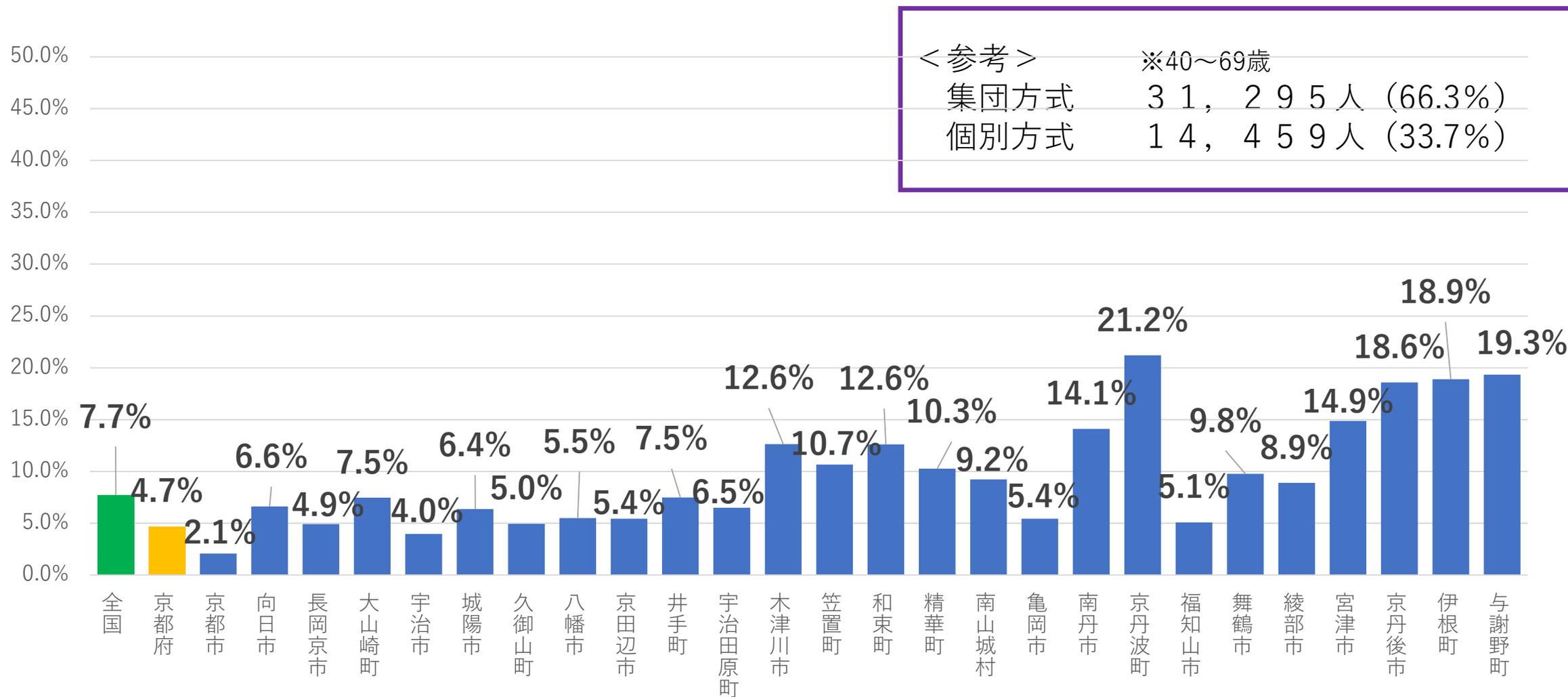
# R2大腸がん検診 検診機関チェックリスト達成率



# 大腸がん検診受診率の推移



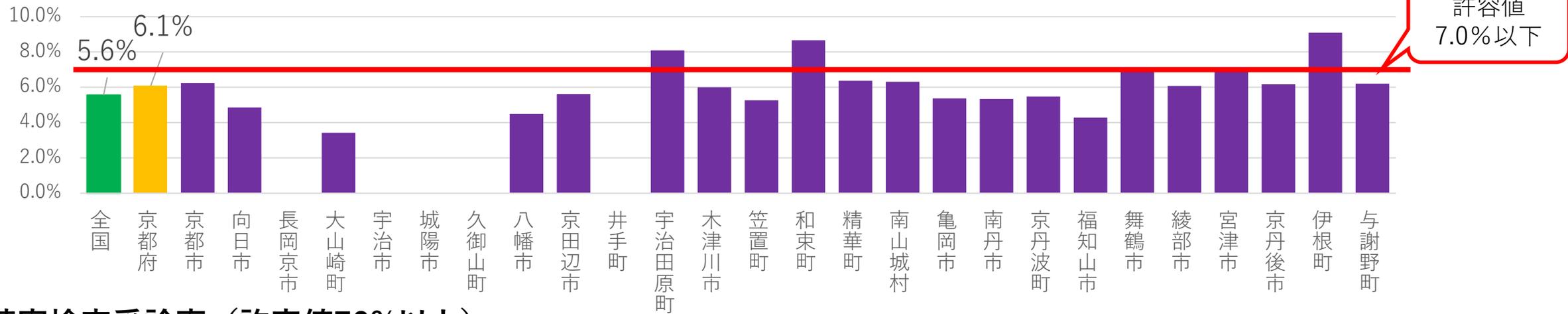
# H31大腸がん検診受診率



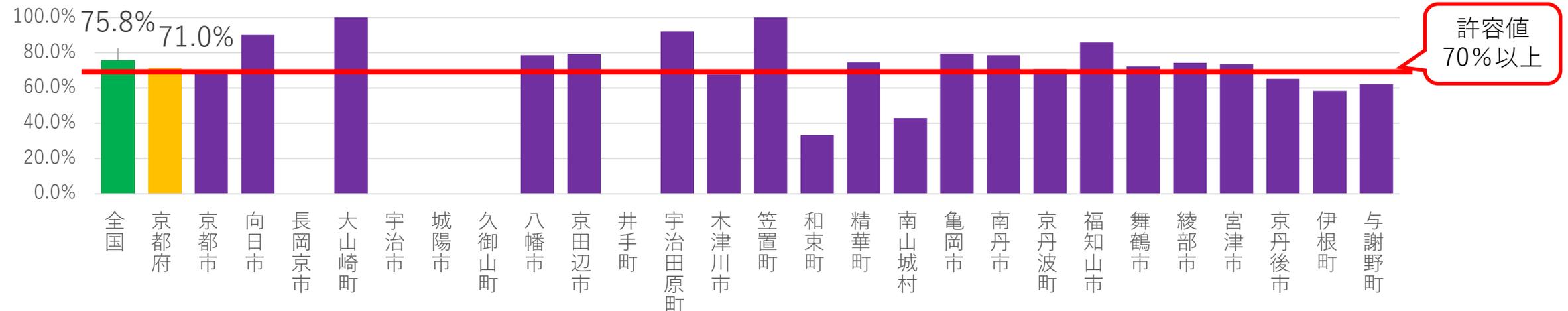
# H30大腸がん検診（集団）市町村プロセス指標①

## 要精検率（許容値7.0%以下）

対象受診者数：44,895人 がん発見数：79人（40～74歳）



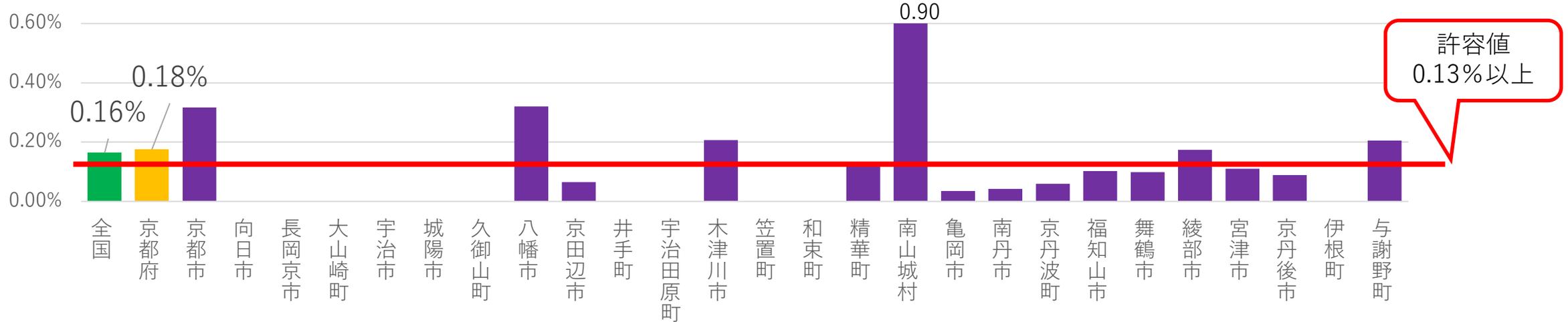
## 精密検査受診率（許容値70%以上）



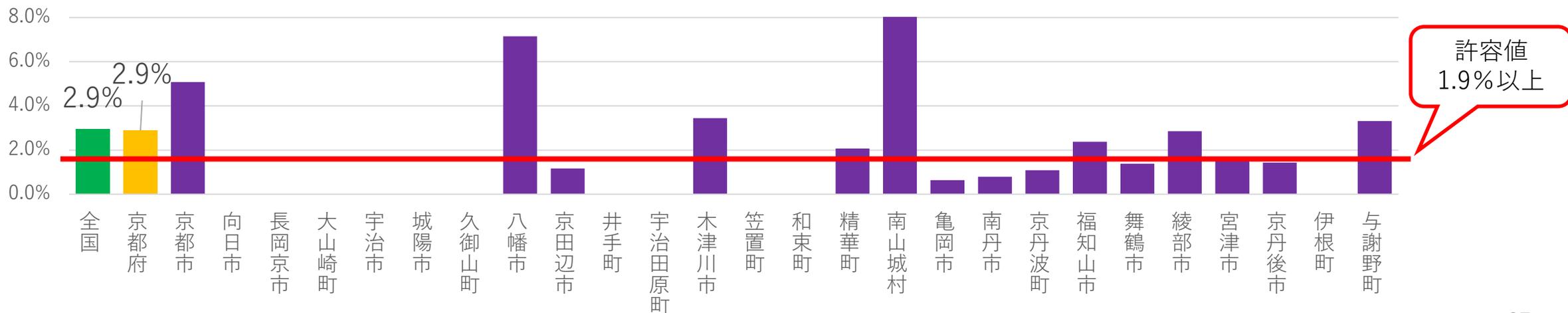
# H30大腸がん検診（集団）市町村プロセス指標②

対象受診者数：44,895人 がん発見数：79人（40～74歳）

がん発見率（許容値0.13%以上）



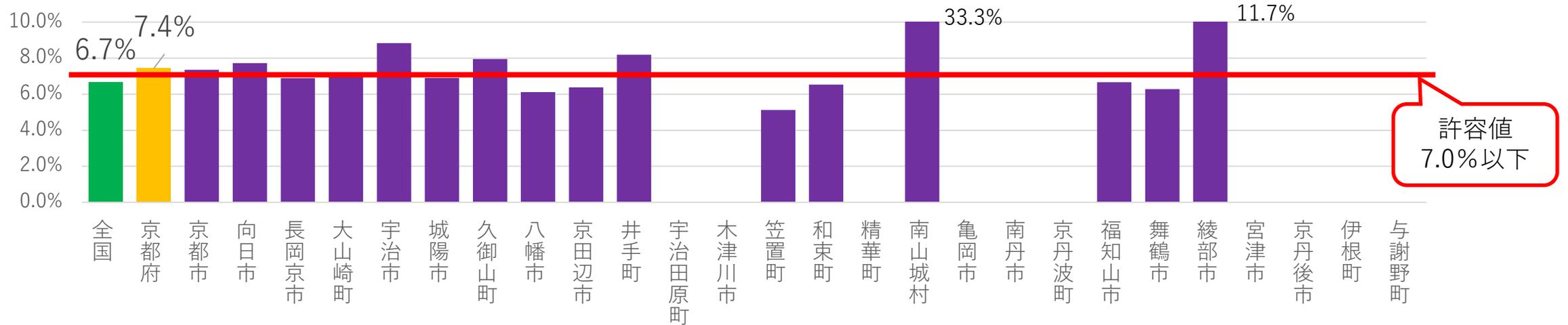
陽性反応適中度（許容値1.9%以上）



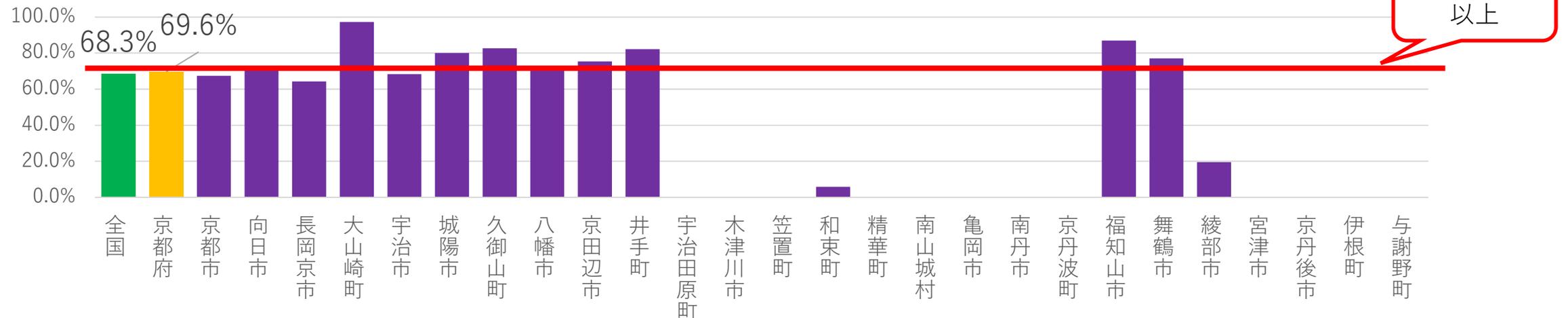
# H30大腸がん検診（個別）市町村プロセス指標①

対象受診者数：26,458人 がん発見数：72人（40～74歳）

## 要精検率（許容値7.0%以下）



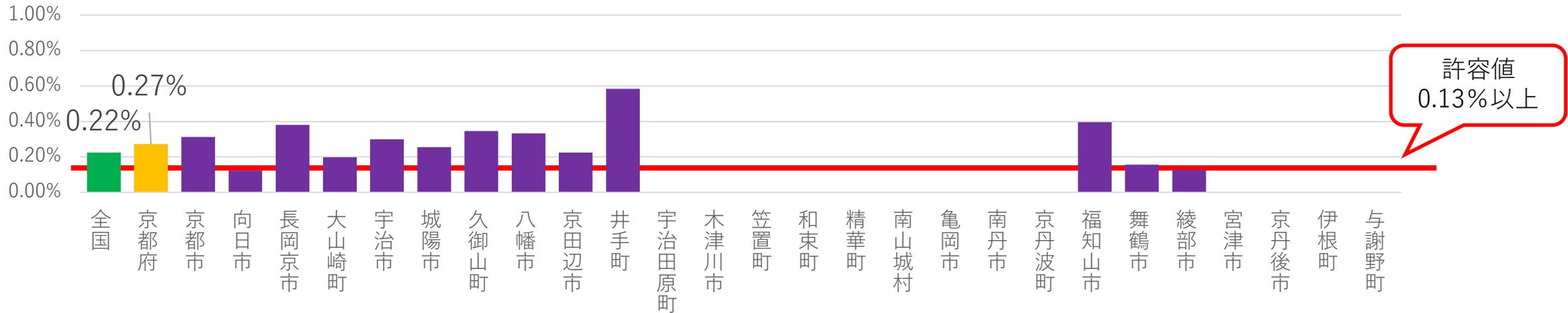
## 精密検査受診率（許容値70%以上）



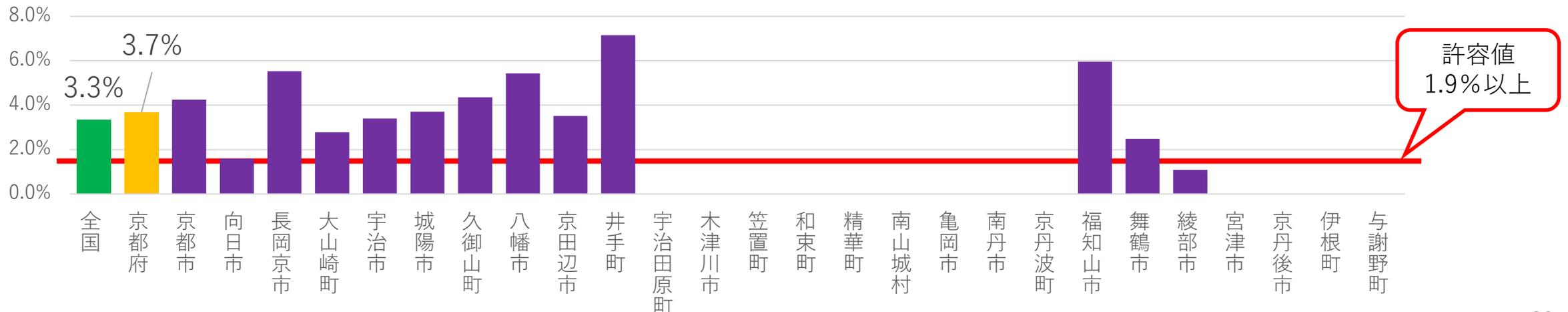
# H30大腸がん検診（個別）市町村プロセス指標②

対象受診者数：26,458人 がん発見数：72人（40～74歳）

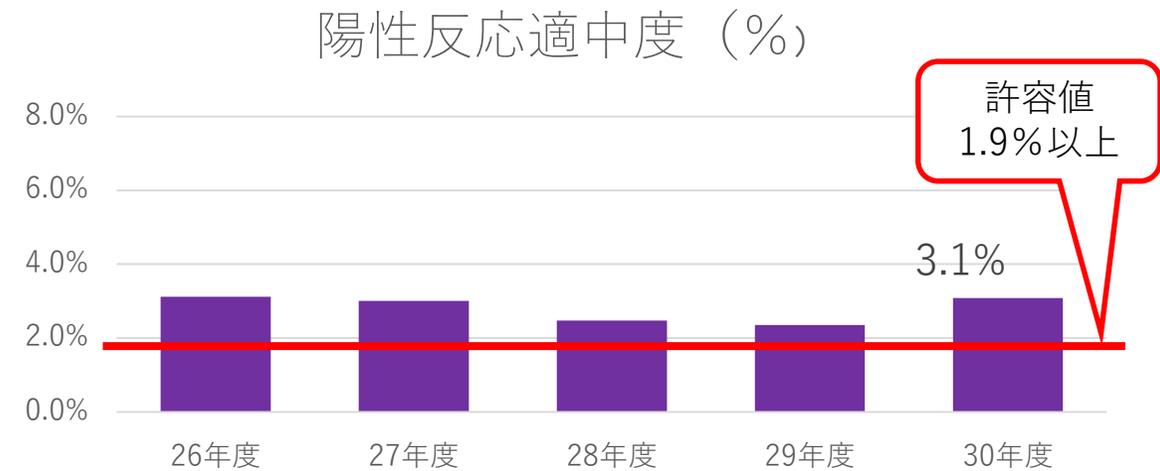
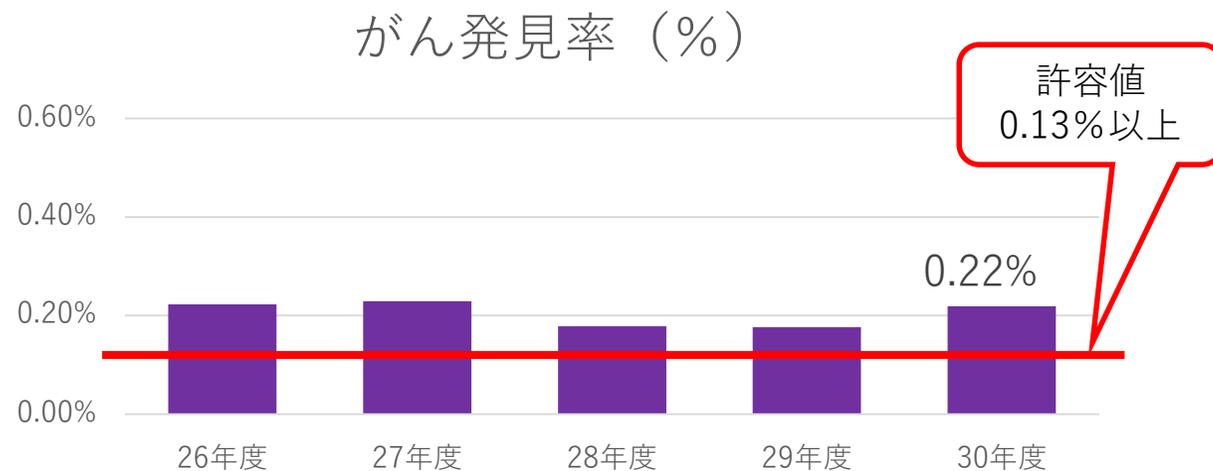
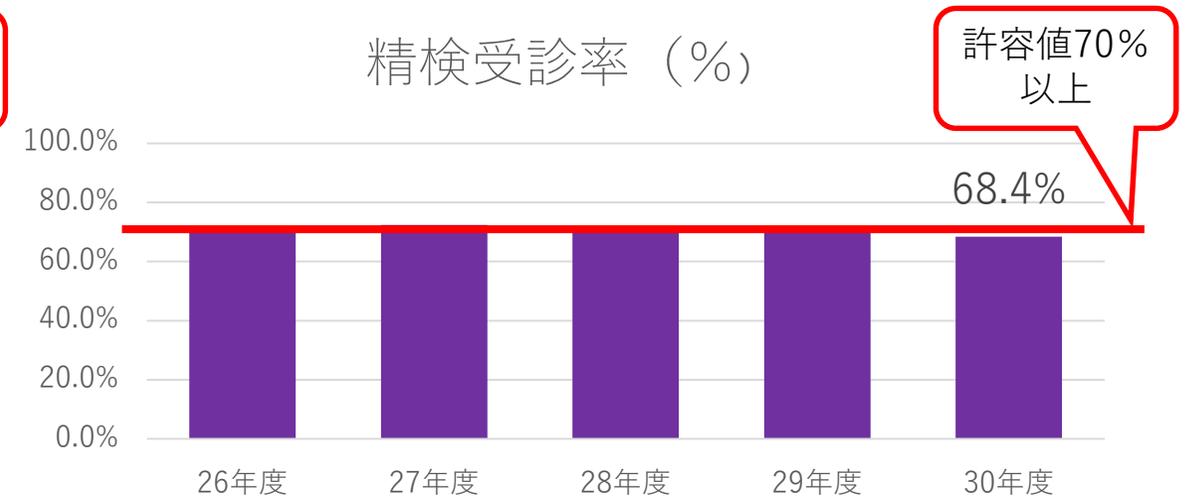
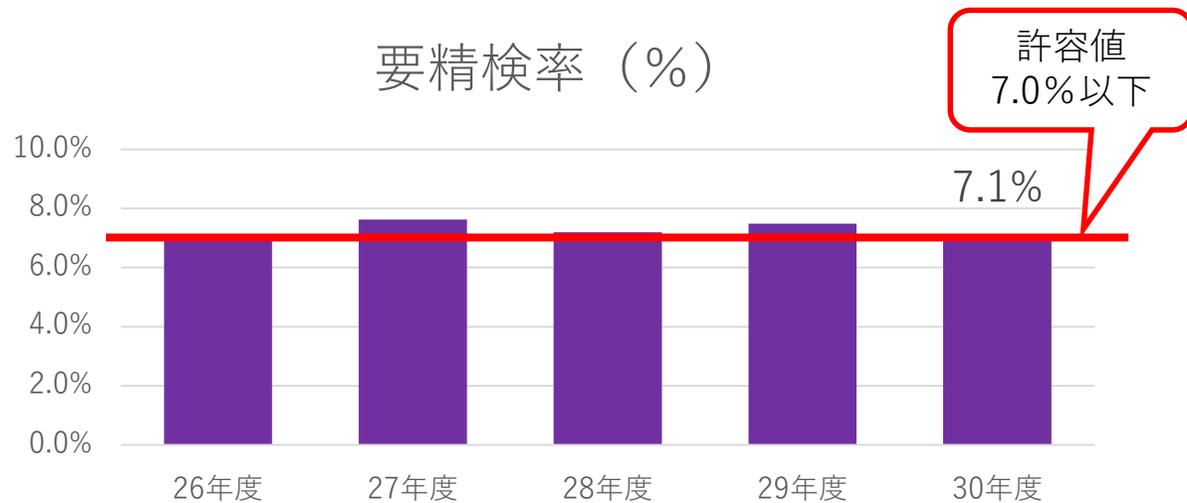
## がん発見率（許容値0.13%以上）



## 陽性反応適中度（許容値1.9%以上）



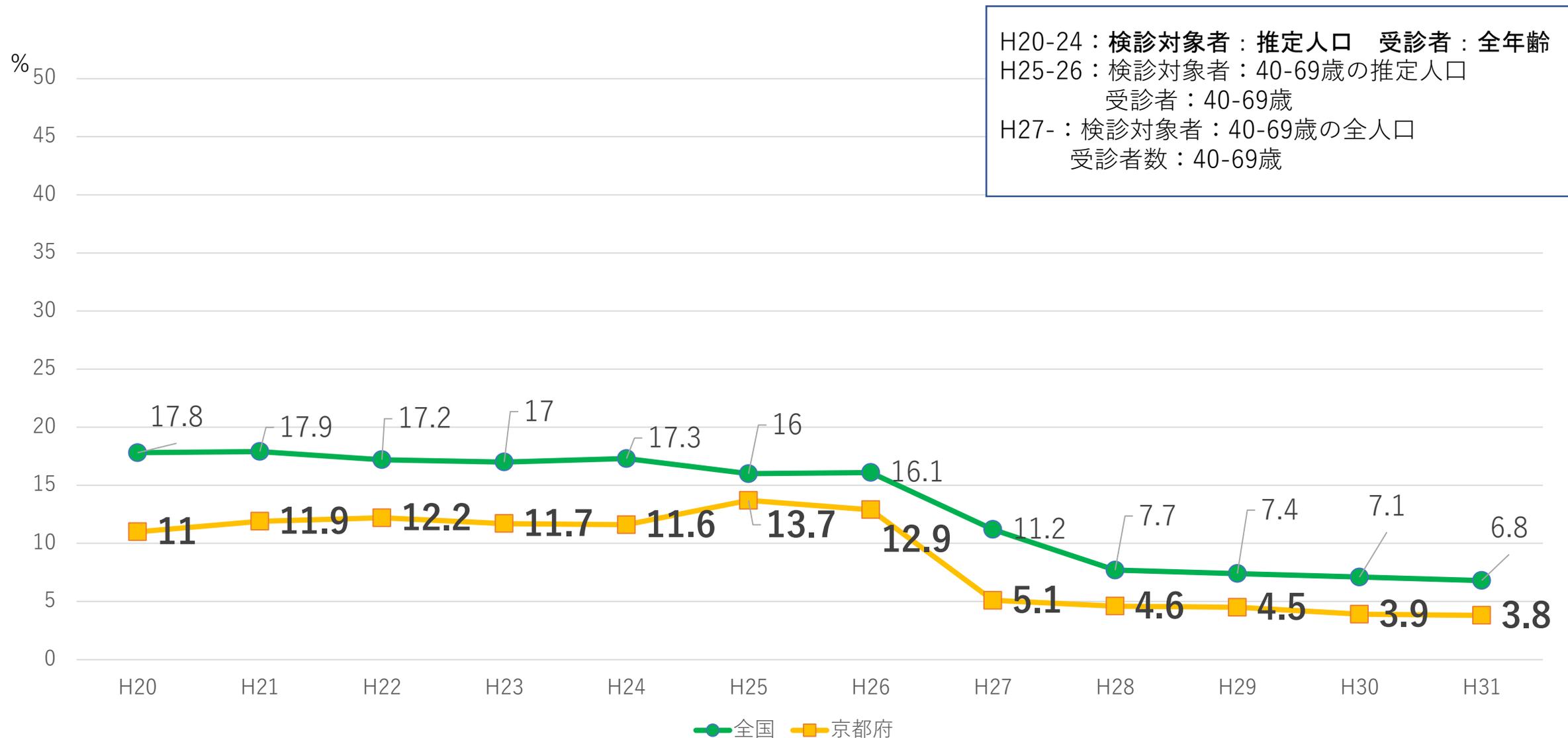
# H30大腸がん検診 検診機関プロセス指標



# 3 肺がん検診

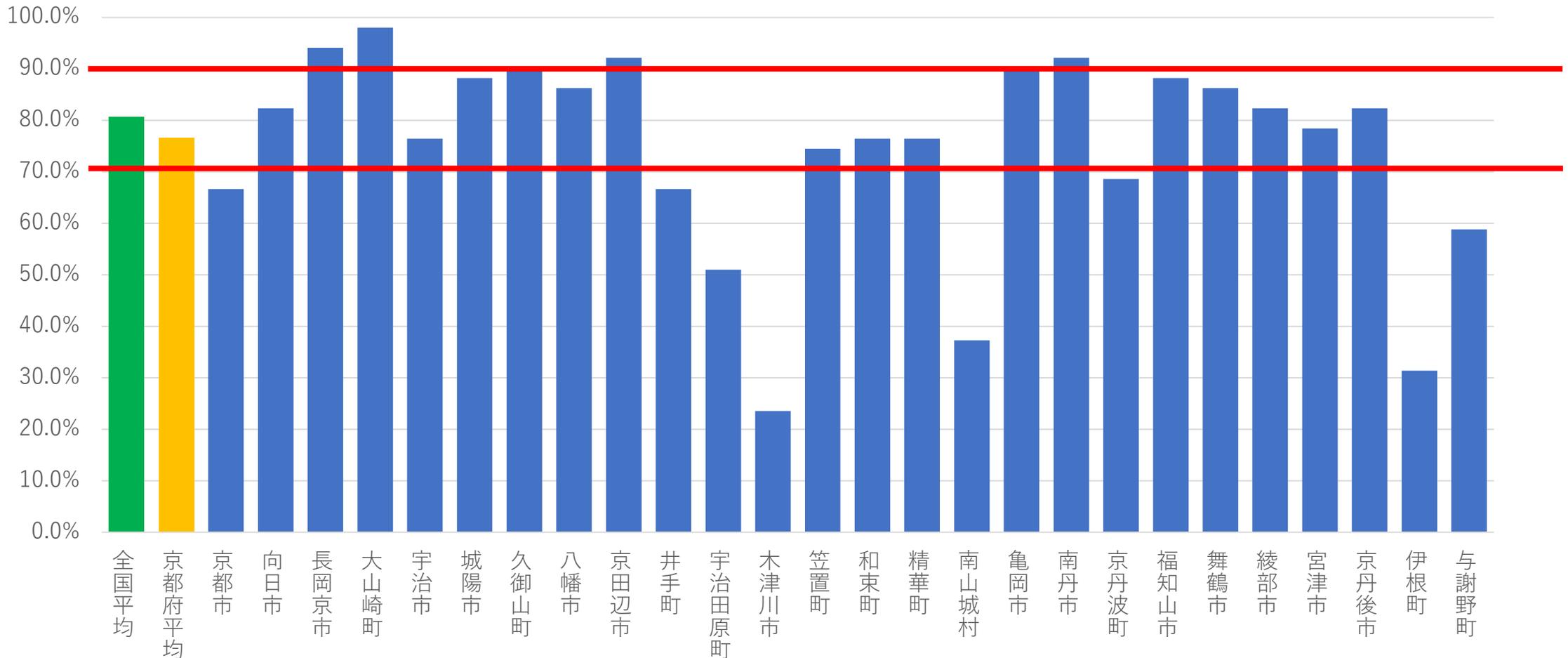
項目	内容
対象者	40歳以上
検診間隔	1年に1回
検診項目	質問（医師が自ら対面により行う場合は問診）、胸部X線検査および喀痰細胞診（ただし喀痰細胞診は、原則50歳以上で喫煙指数が600以上の人のみ。過去の喫煙者も含む）
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	40～69歳の受診者。検診対象者は、同年代の全人口。
府内の状況（R3年度）	◆集団方式 26市町村 ◆個別方式 0
H30年度受診者数とがん発見数（40～74歳）	集団方式（受診者数 <b>56,815人</b> 、がん発見数 <b>11人</b> ）

# 肺がん検診受診率の推移

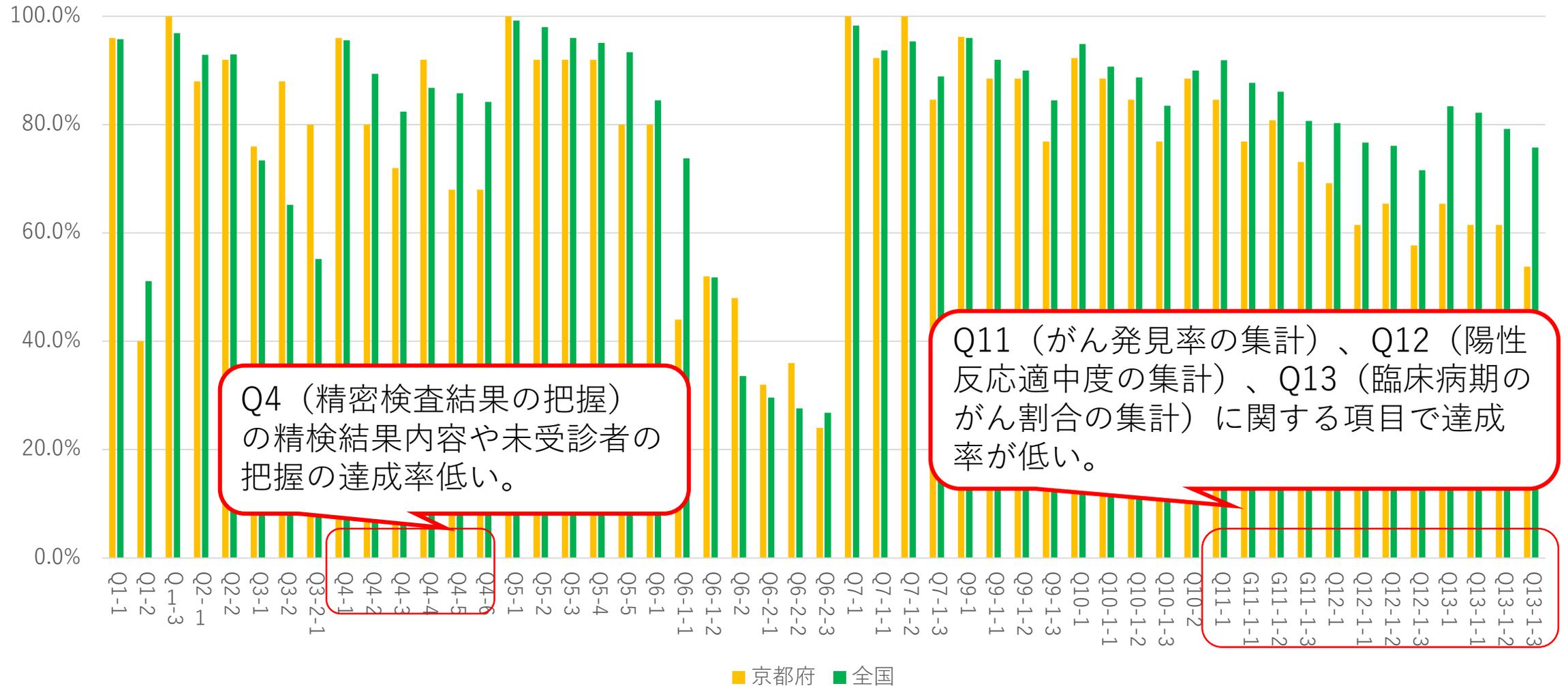


# R2肺がん検診（集団方式） 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞

基準 A：100% B：90～99%（許容範囲内） C：70～89%（一部改善が必要） D：69%以下（改善が必要） E：未回答



# R2肺がんがん検診（集団方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>



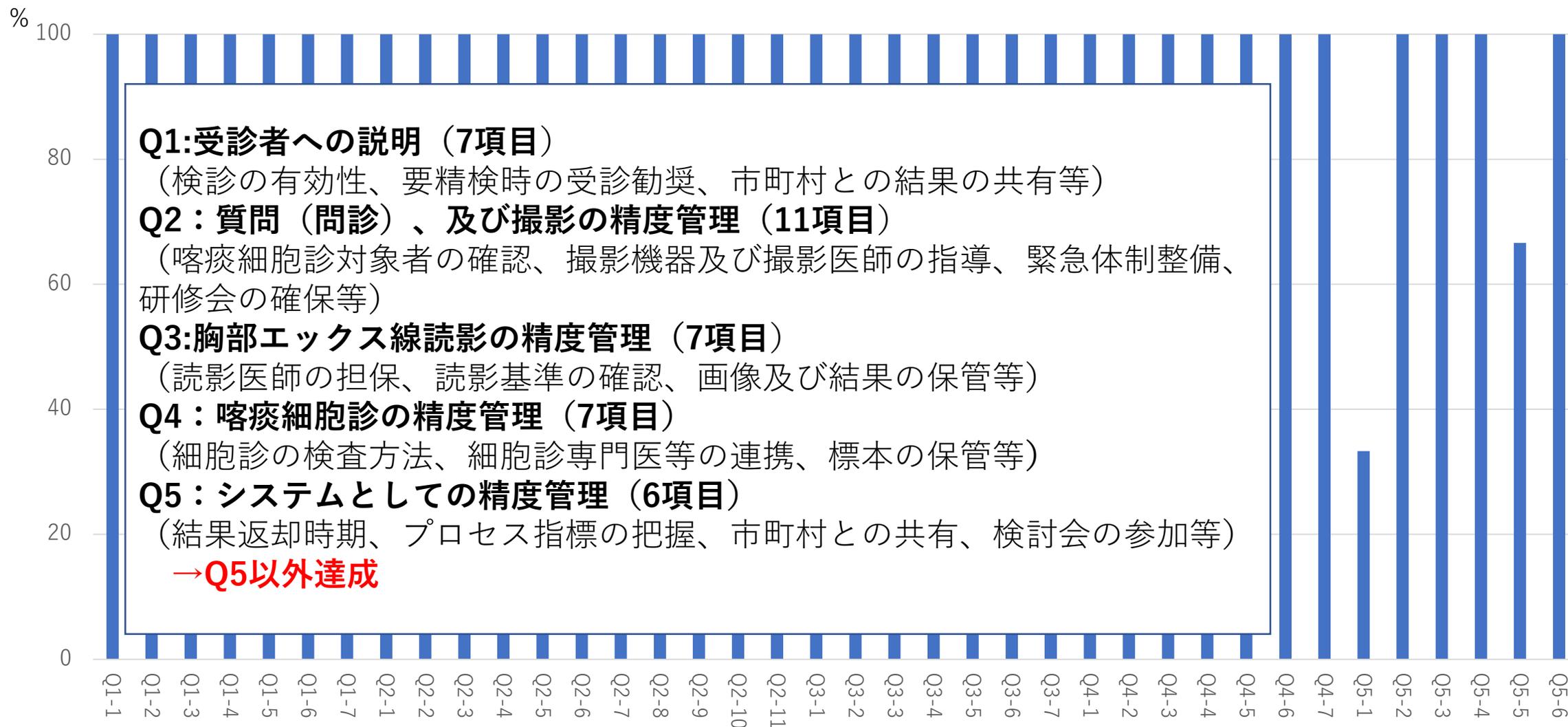
Q4（精密検査結果の把握）の精検結果内容や未受診者の把握の達成率低い。

Q11（がん発見率の集計）、Q12（陽性反応適中度の集計）、Q13（臨床病期のがん割合の集計）に関する項目で達成率が低い。

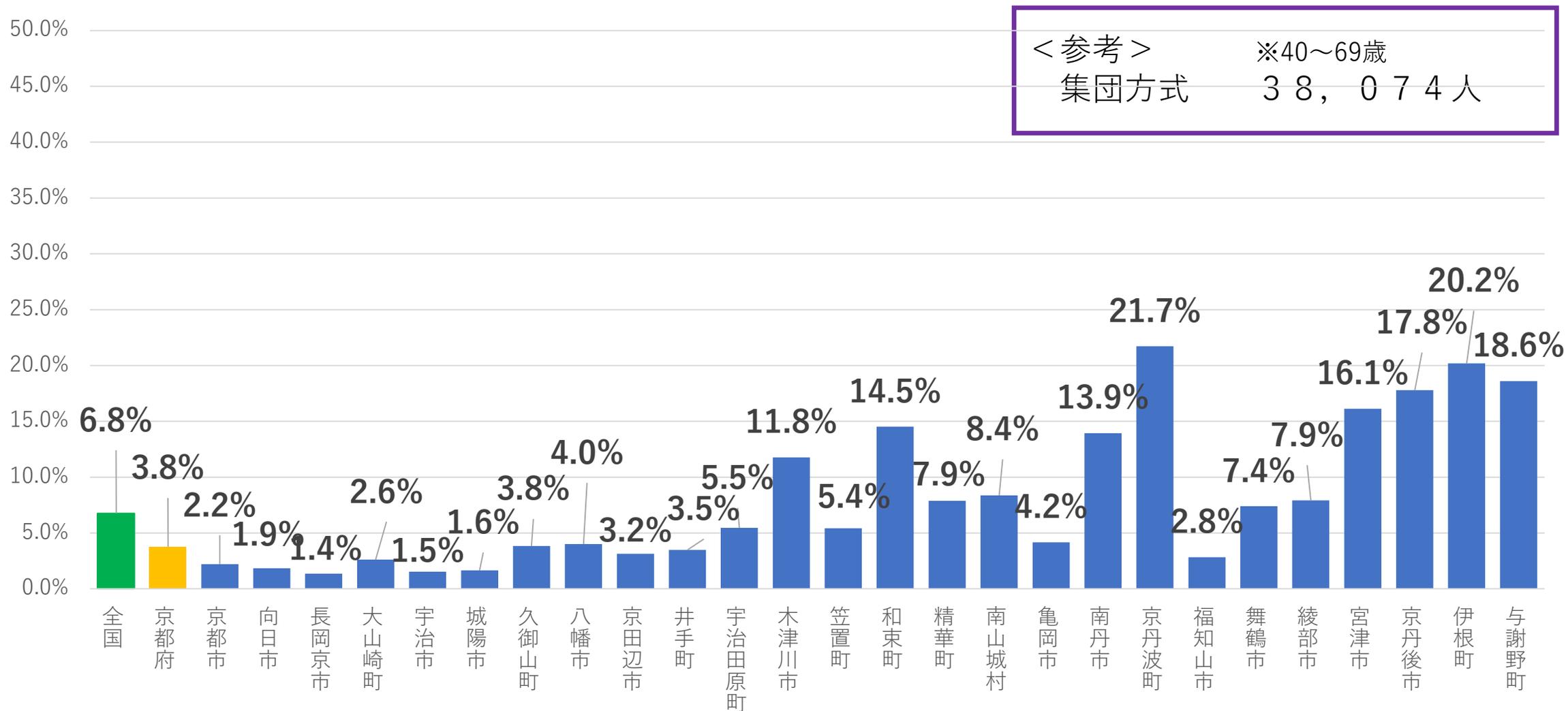
Q11-1, G11-1-1, G11-1-2, G11-1-3, Q12-1, Q12-1-1, Q12-1-2, Q12-1-3, Q13-1, Q13-1-1, Q13-1-2, Q13-1-3

■ 京都府 ■ 全国

# R2肺がん検診 検診機関チェックリスト達成率



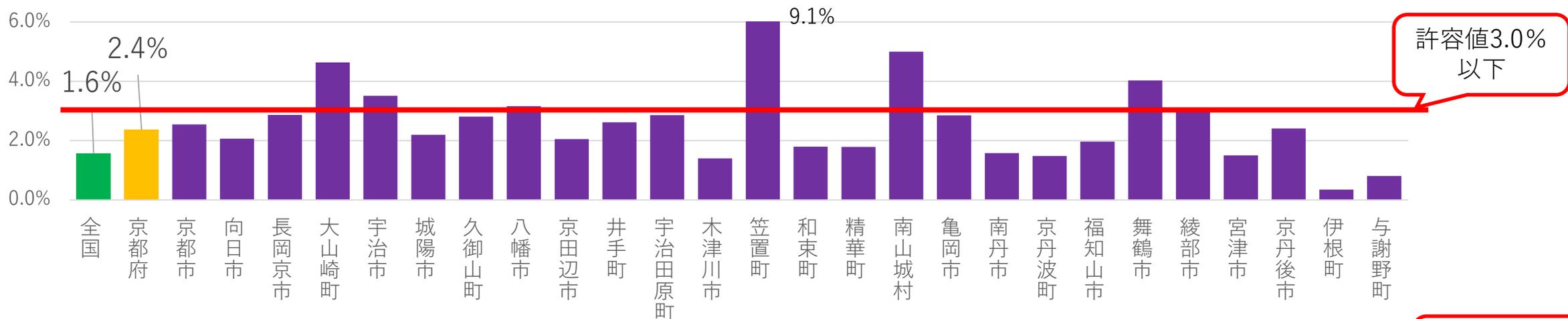
# H31肺がん検診（全て）受診率



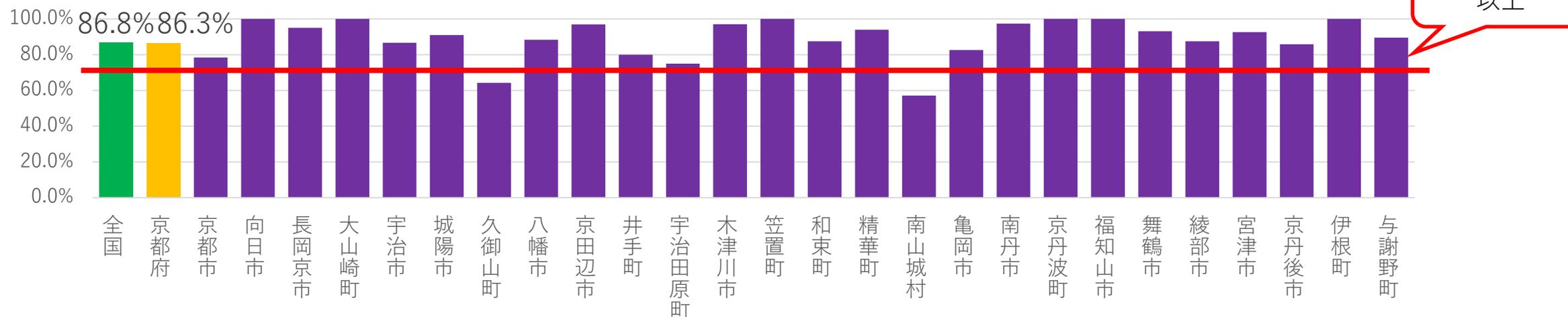
# H30肺がん検診（全て・集団）市町村プロセス指標①

対象受診者数：56,815人 がん発見数：11人（40～74歳）

## 要精検率（許容値3.0%以下）



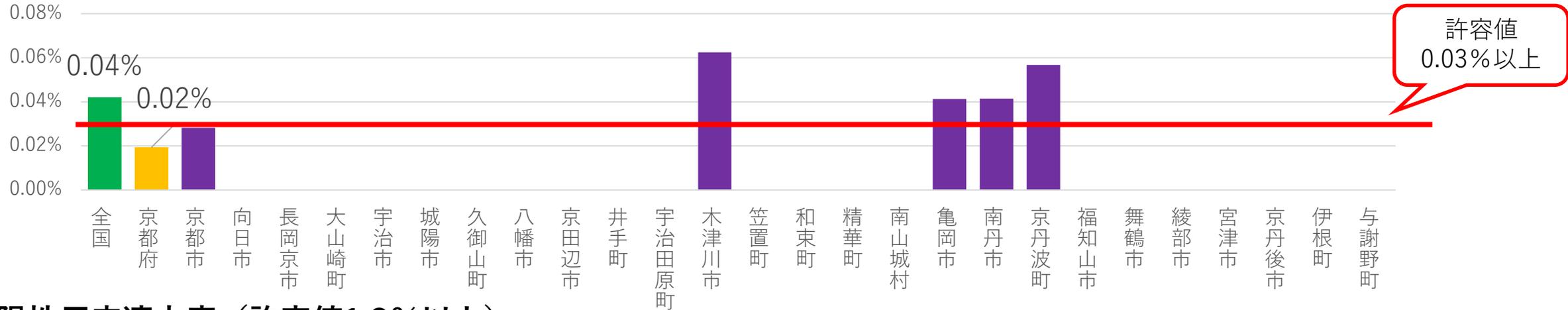
## 精密検査受診率（許容値70%以上）



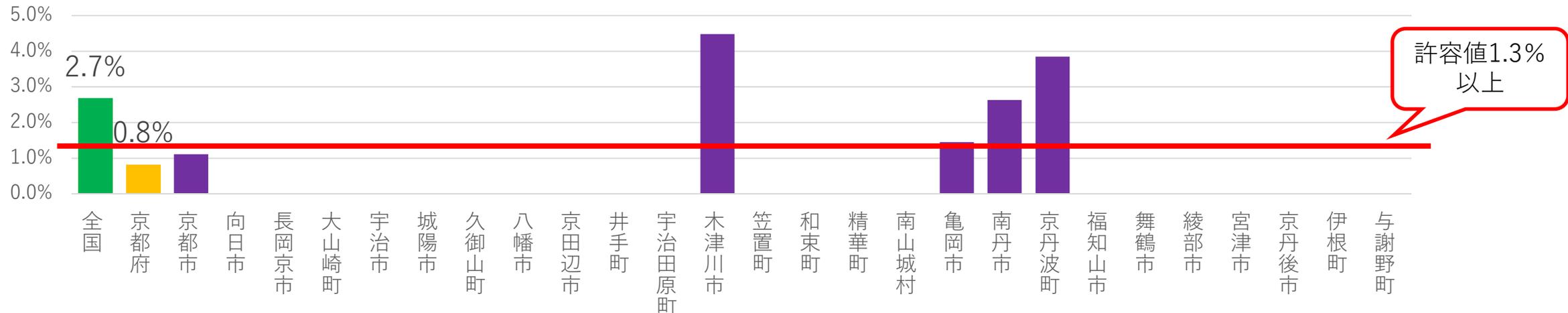
# H30肺がん検診（全て・集団）市町村プロセス指標②

## がん発見率（許容値0.03%以上）

対象受診者数：56,815人 がん発見数：11人（40～74歳）

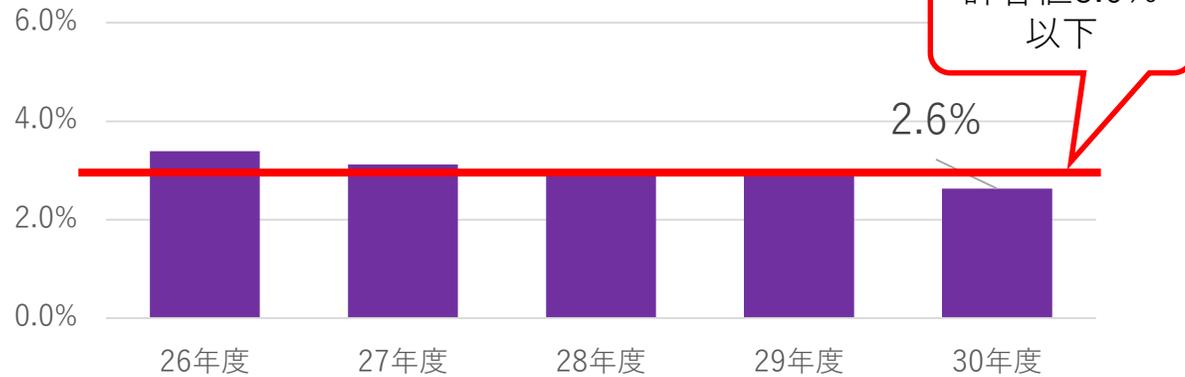


## 陽性反応適中度（許容値1.3%以上）

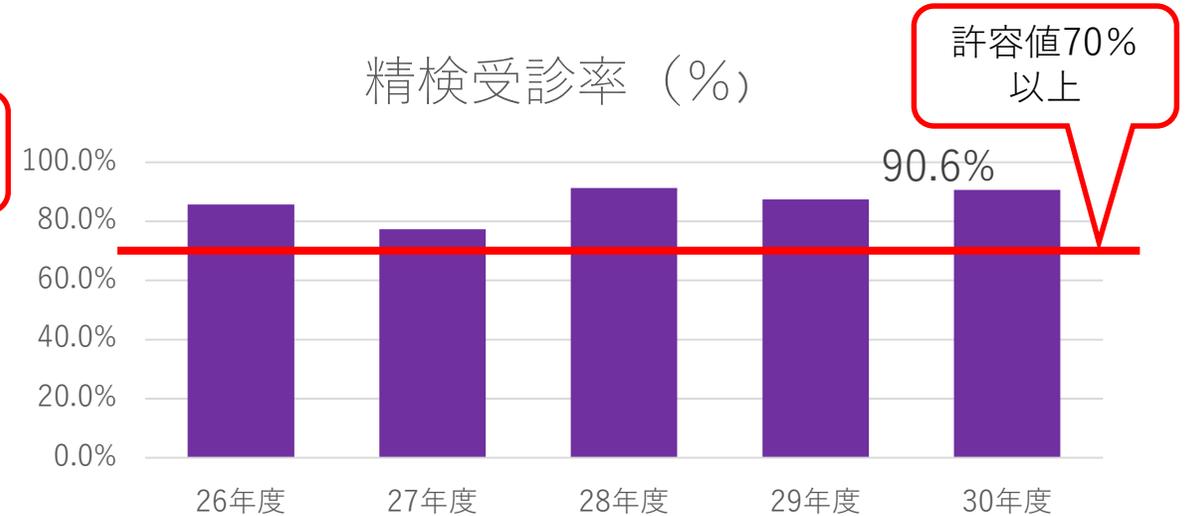


# H30肺がん検診 検診機関プロセス指標

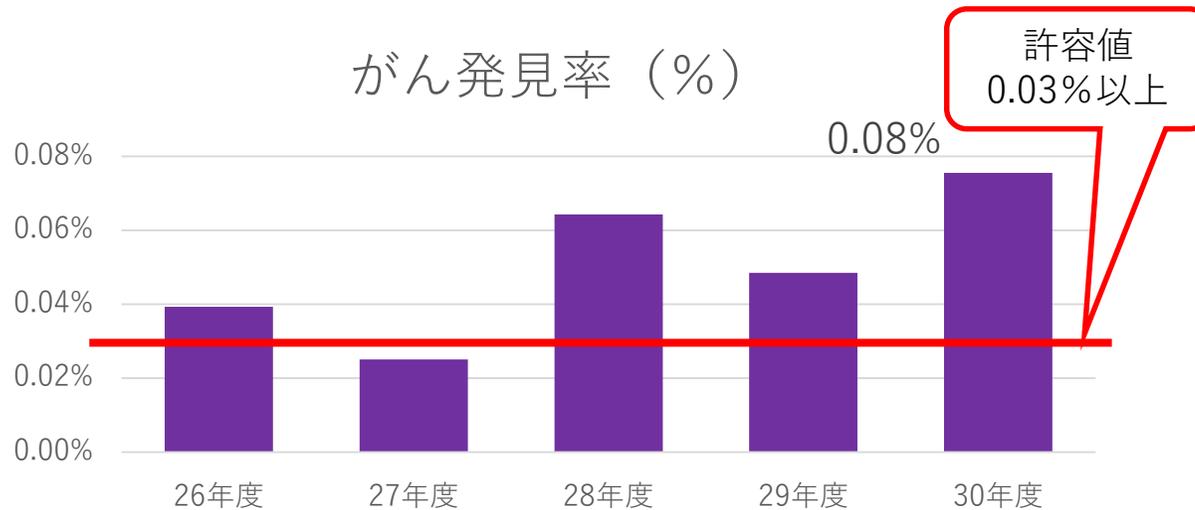
要精検率 (%)



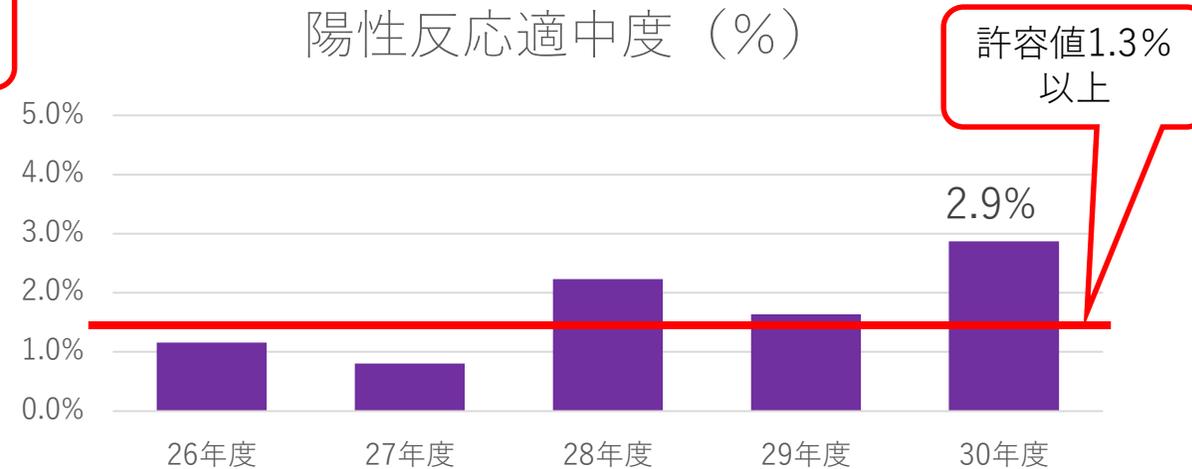
精検受診率 (%)



がん発見率 (%)



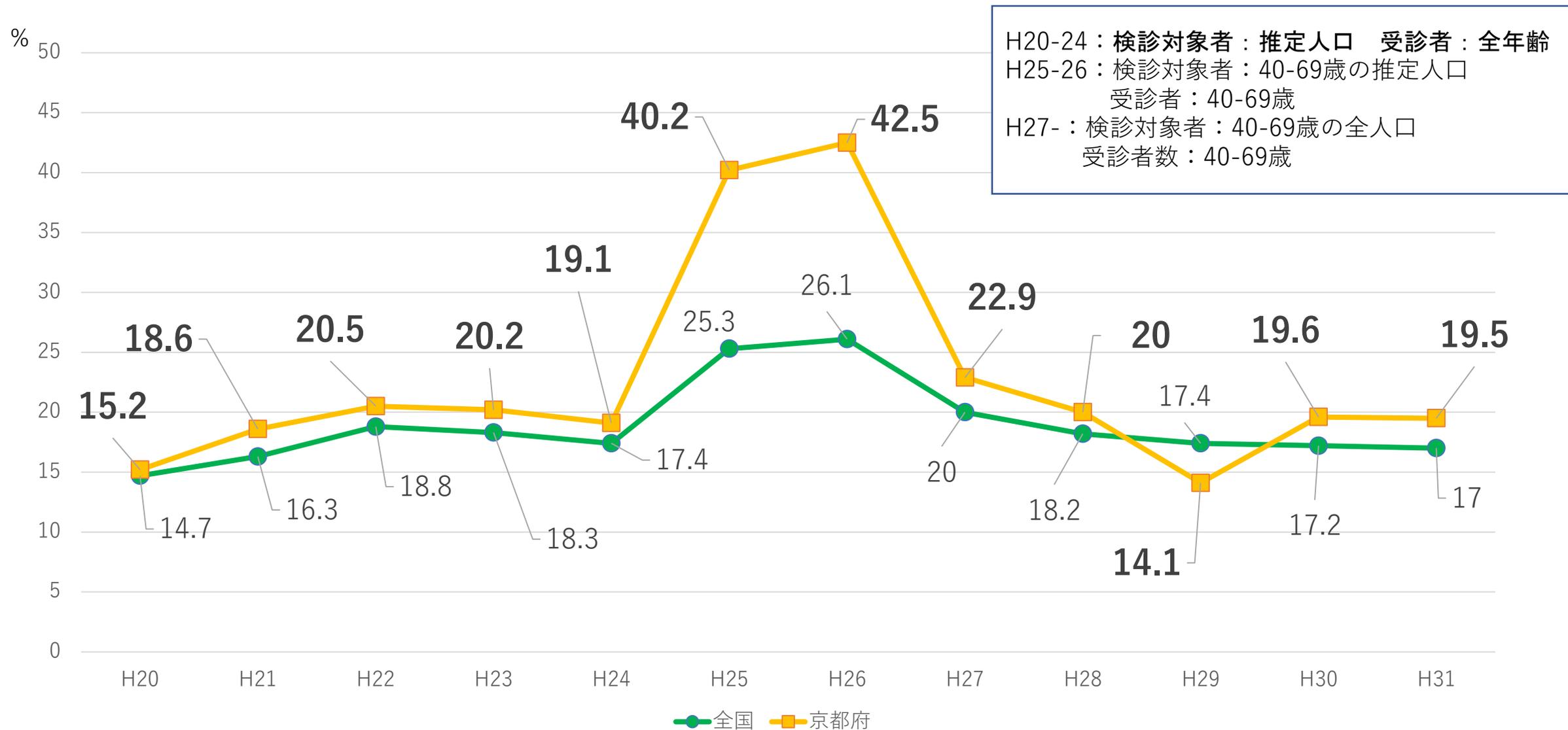
陽性反応適中度 (%)



# 4 乳がん検診

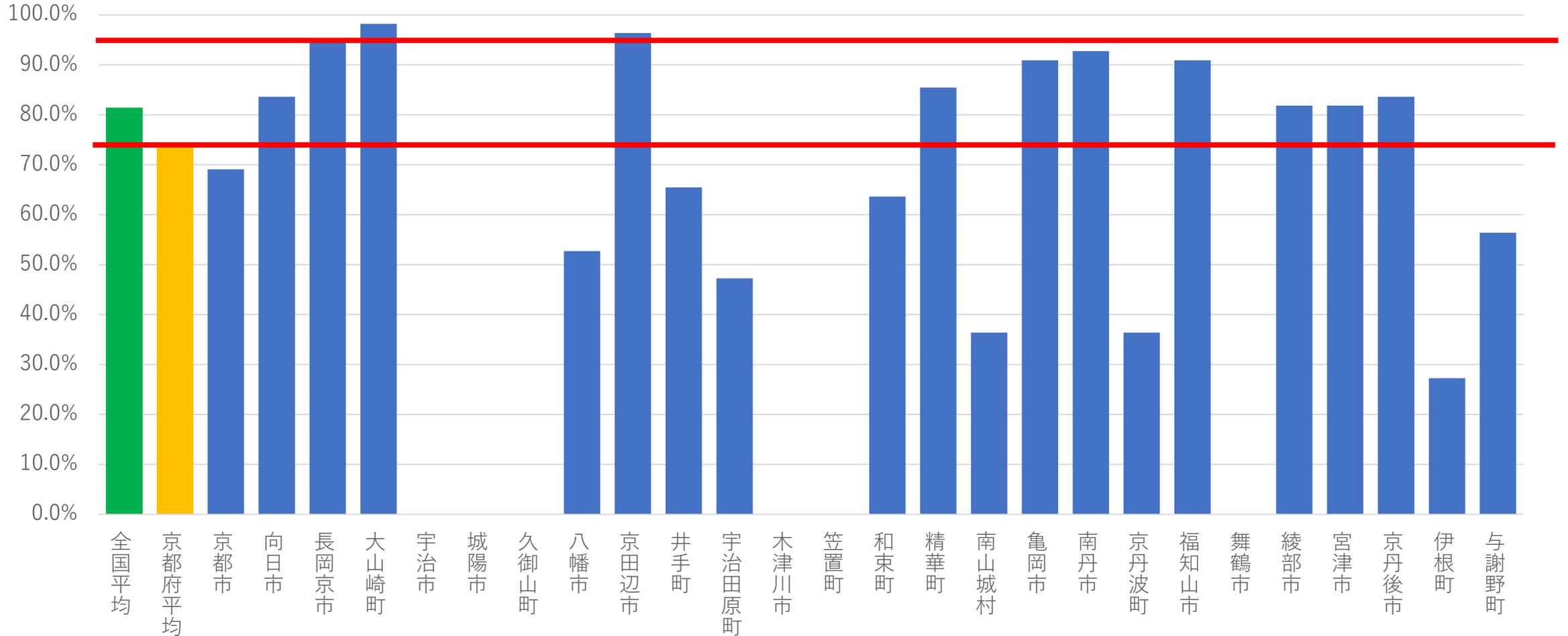
項目	内容
対象者	40歳以上の女性
検診間隔	2年に1回
検診項目	質問（医師が自ら対面により行う場合は問診）および乳房X線検査（マンモグラフィ）
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	40～69歳の女性受診者。検診対象者は、同年代の全人口。
府内の状況（R3年度）	◆集団方式 19市町村 ◆個別方式 22市町村
H30年度受診者数とがん発見数（40～74歳）	集団方式（受診者数 <b>17,194人</b> 、がん発見数 <b>51人</b> ） 個別方式（受診者数 <b>21,802人</b> 、がん発見数 <b>70人</b> ）

# 乳がん検診受診率の推移



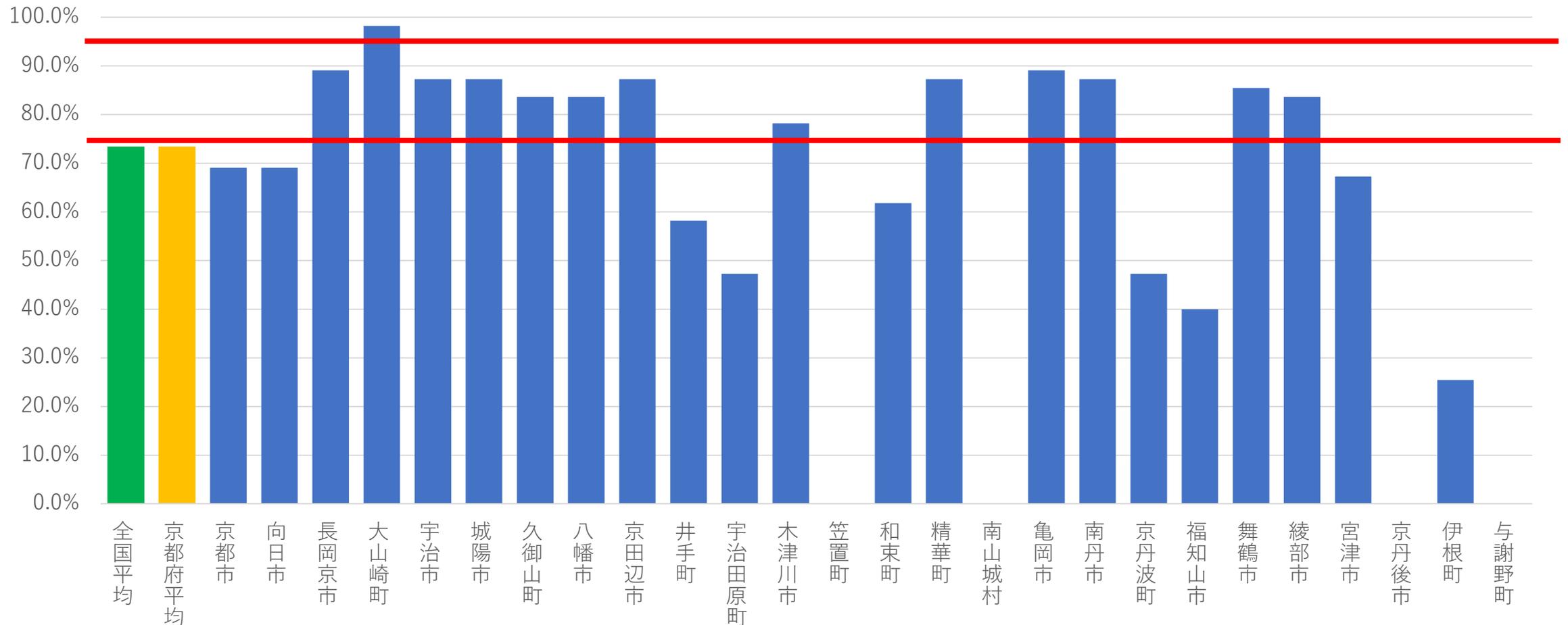
# R2乳がん検診（集団方式） 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞

基準 A：100% B：90～99%（許容範囲内） C：70～89%（一部改善が必要） D：69%以下（改善が必要） E：未回答

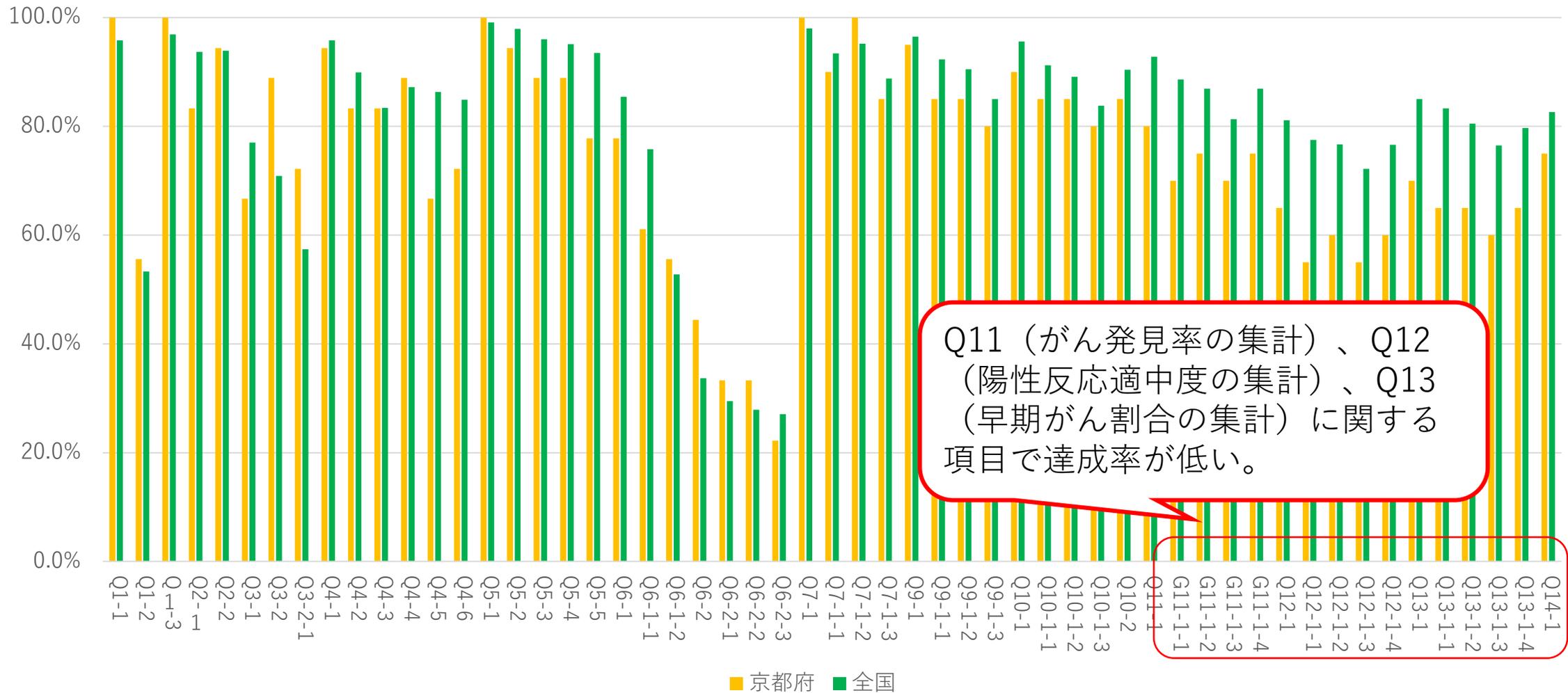


# R2乳がん検診（個別方式） 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞

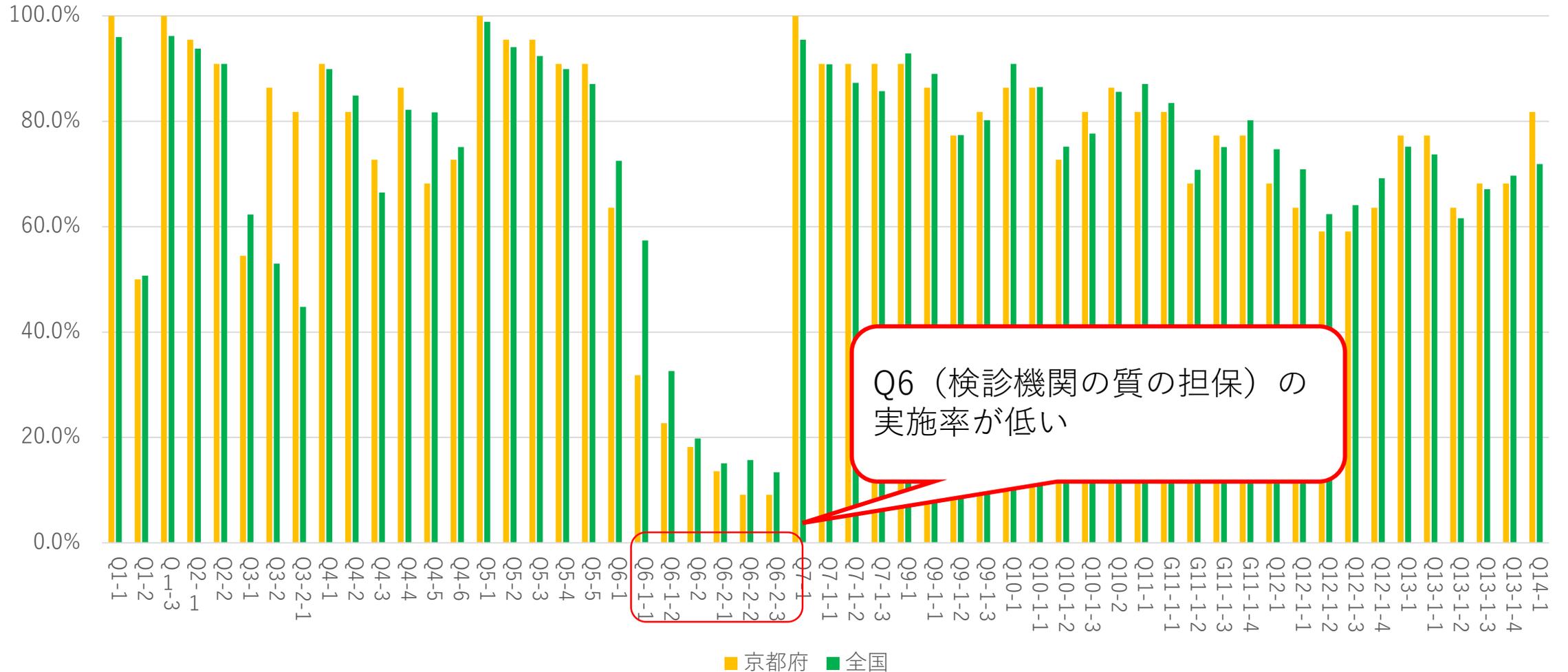
基準 A：100% B：90～99%（許容範囲内） C：70～89%（一部改善が必要） D：69%以下（改善が必要） E：未回答



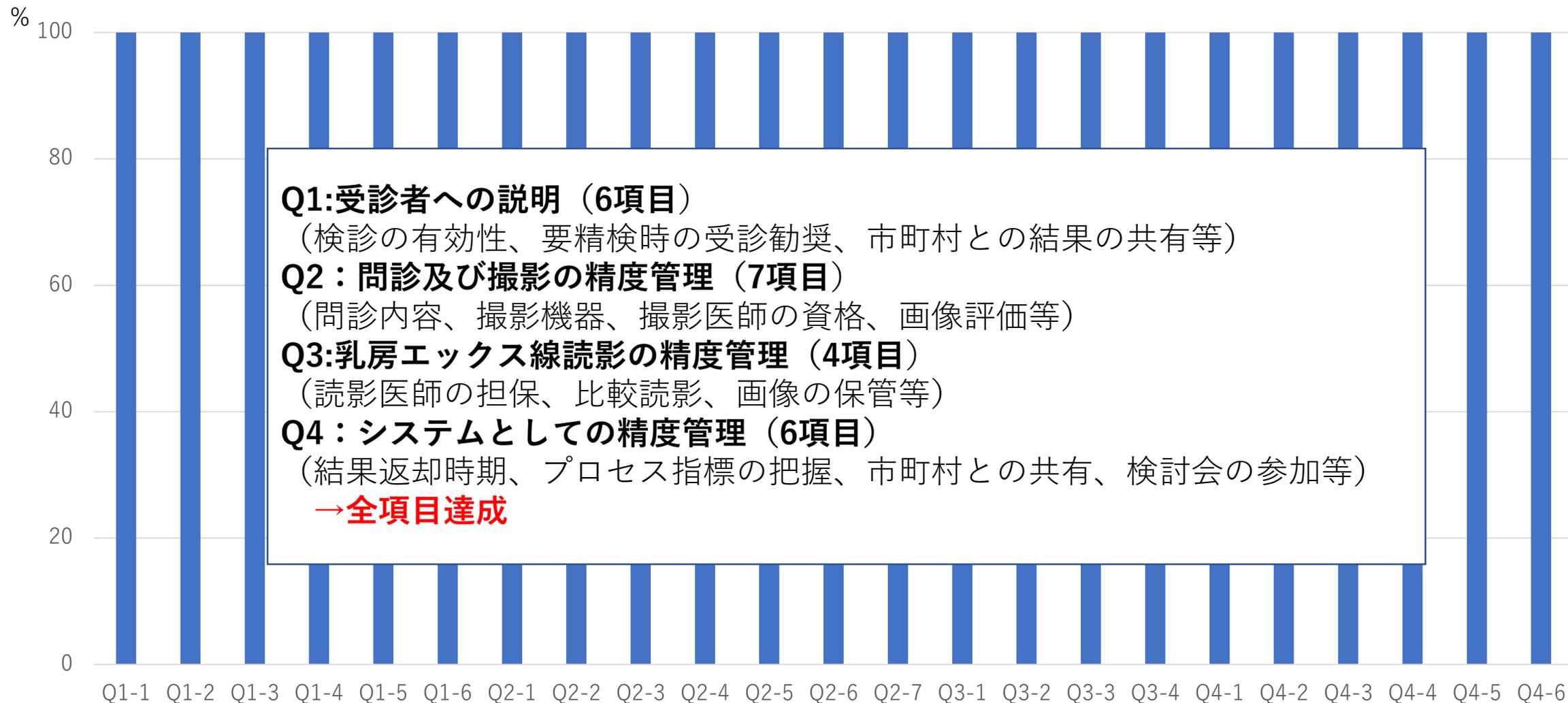
# R2乳がん検診（集団方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>



# R2乳がん検診（個別方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>

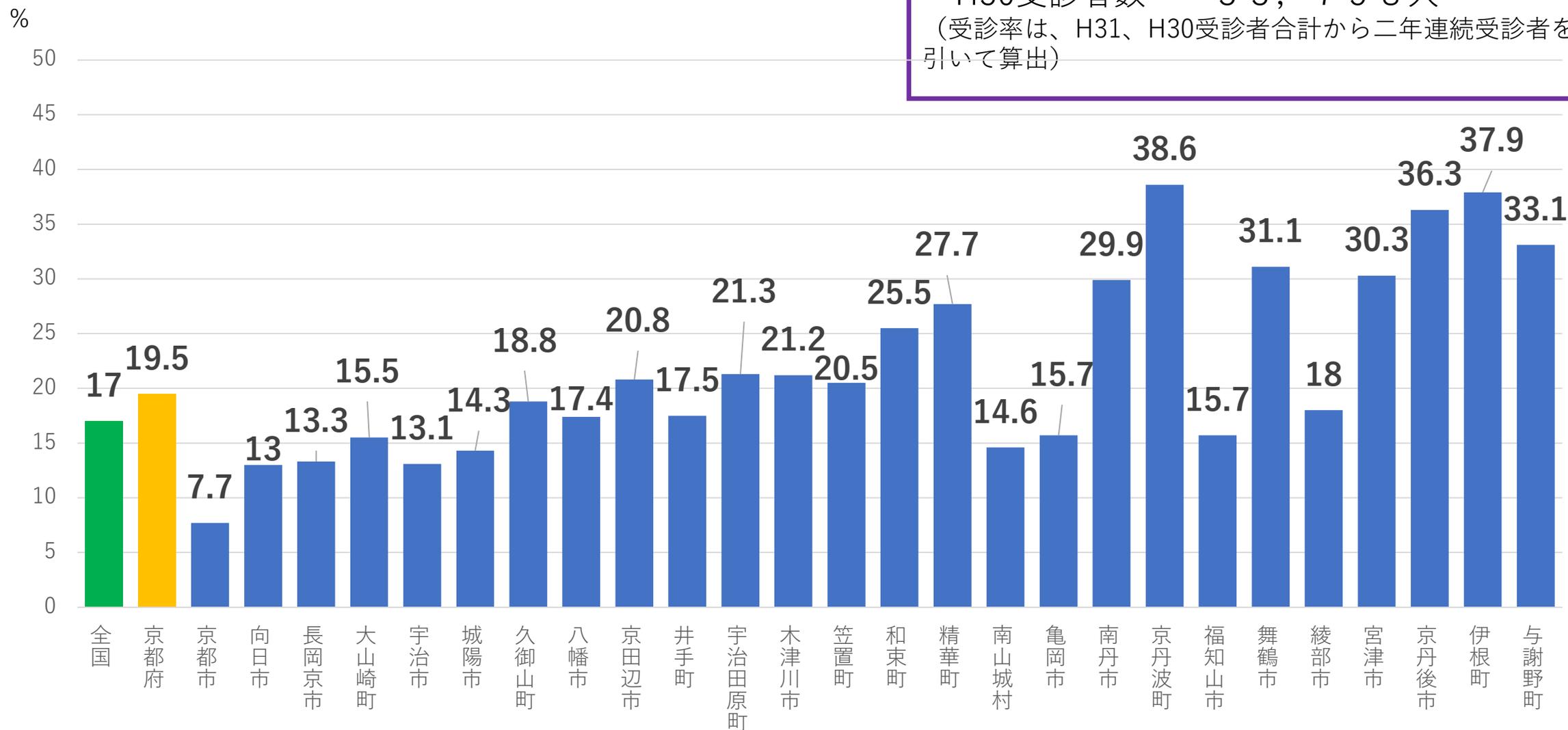


# R2乳がん検診 検診機関チェックリスト達成率



# H31乳がん検診受診率

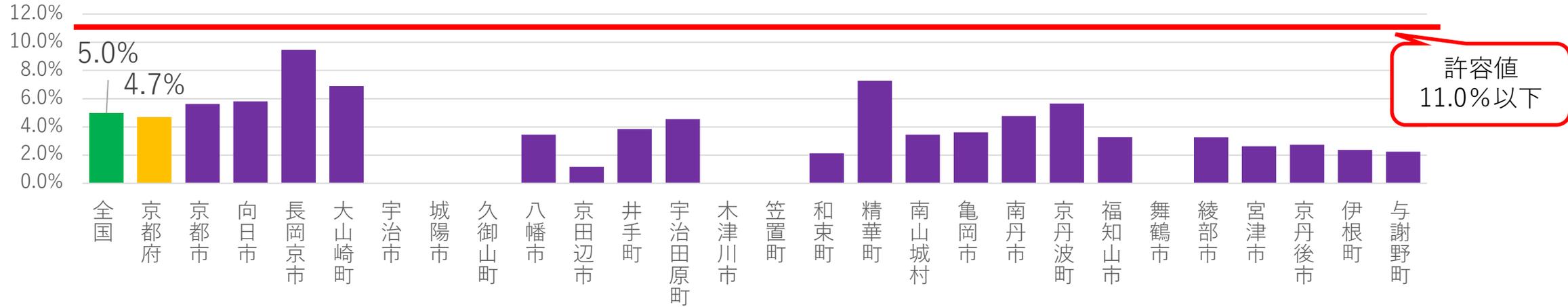
H31受診者数 34,016人  
 H30受診者数 33,758人  
 (受診率は、H31、H30受診者合計から二年連続受診者を差し引いて算出)



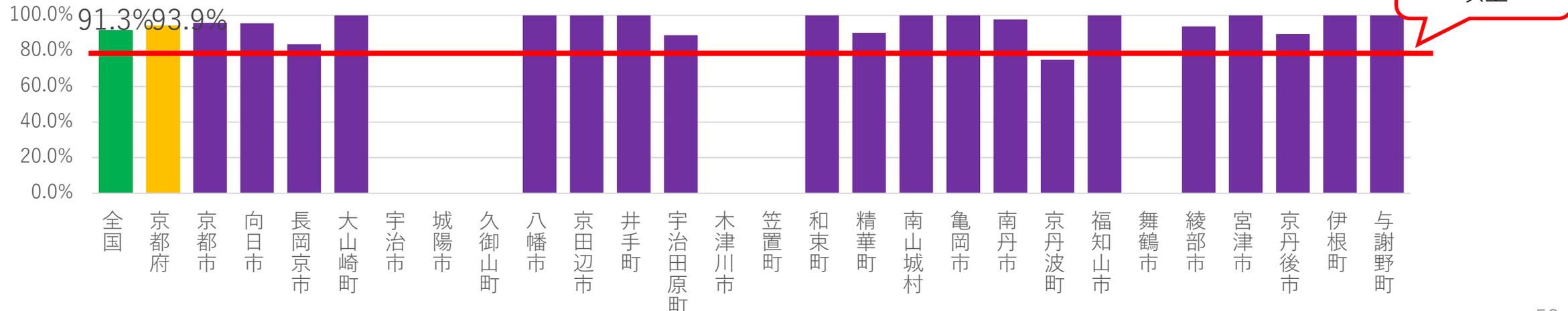
# H30乳がん検診（集団）市町村プロセス指標①

対象受診者数：17,194人 がん発見数：51人（40～74歳）

## 要精検率（許容値11.0%以下）



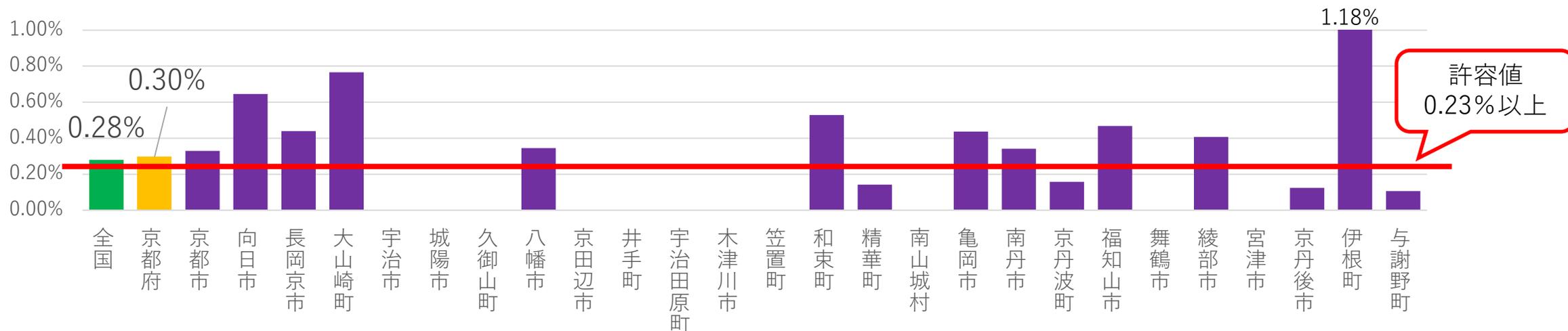
## 精密検査受診率（許容値80%以上）



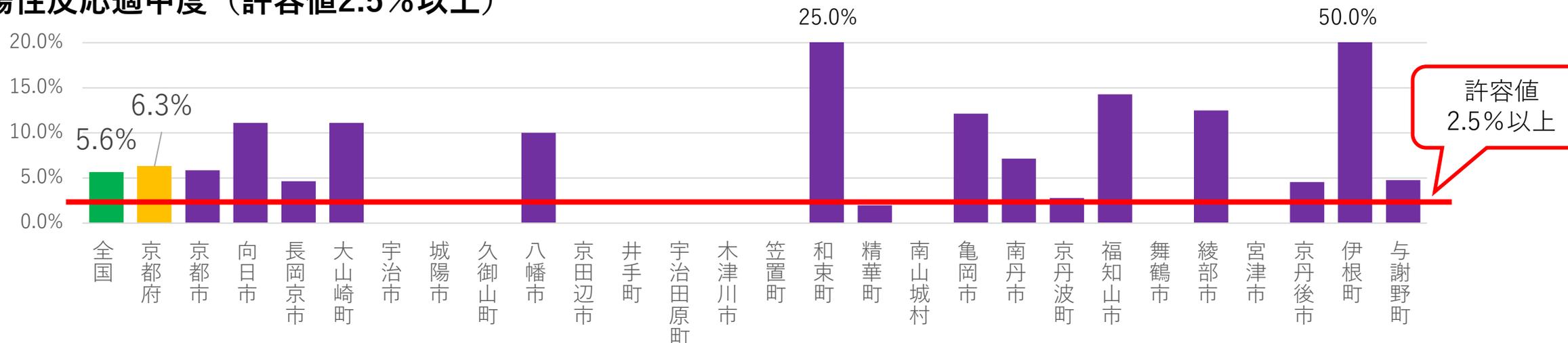
# H30乳がん検診（集団）市町村プロセス指標②

## がん発見率（許容値0.23%以上）

対象受診者数：17,194人 がん発見数：51人（40～74歳）



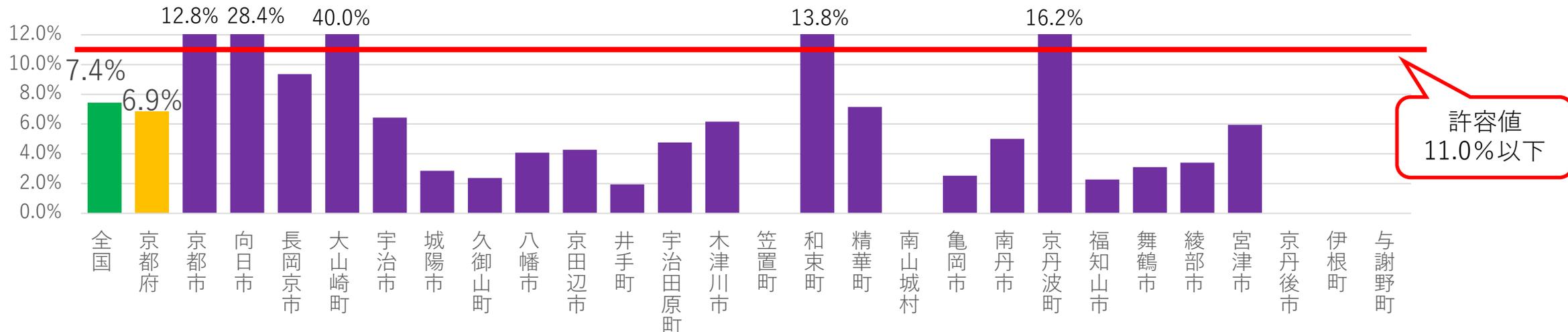
## 陽性反応適中度（許容値2.5%以上）



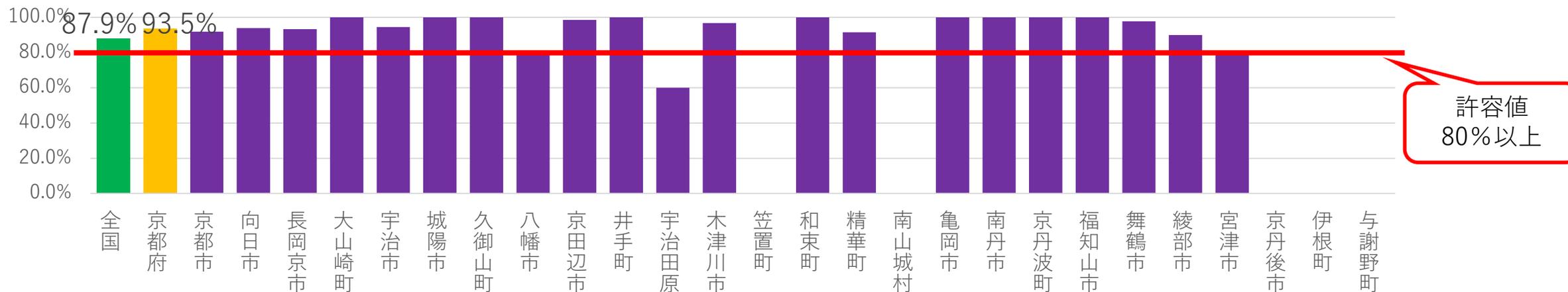
# H30乳がん検診（個別）市町村プロセス指標①

対象受診者数：21,802人 がん発見数：70人（40～74歳）

## 要精検率（許容値11.0%以下）



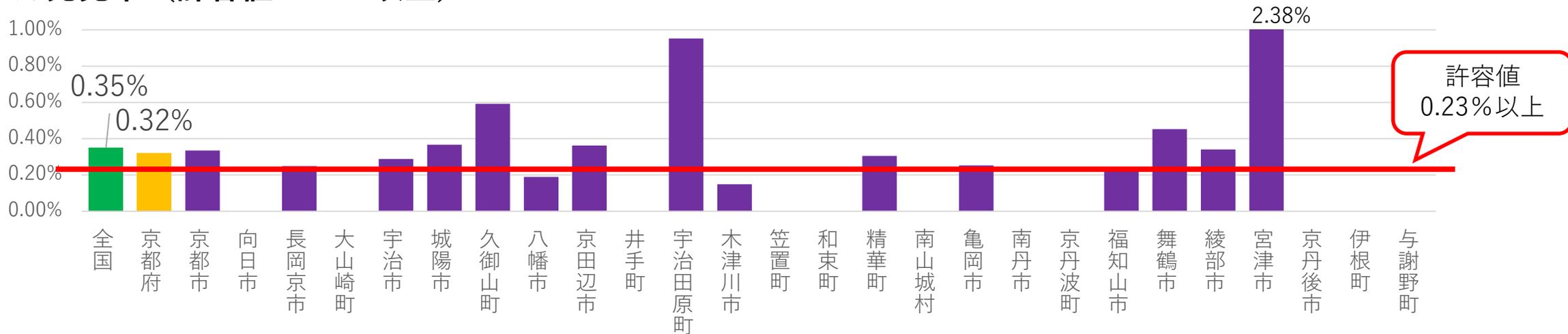
## 精密検査受診率（許容値80%以上）



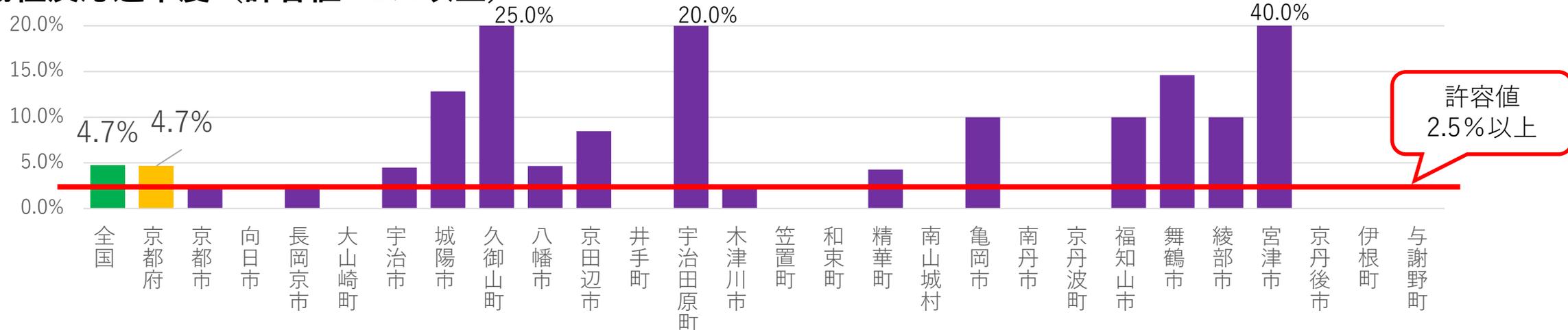
# H30乳がん検診（個別）市町村プロセス指標②

対象受診者数：21,802人 がん発見数：70人（40～74歳）

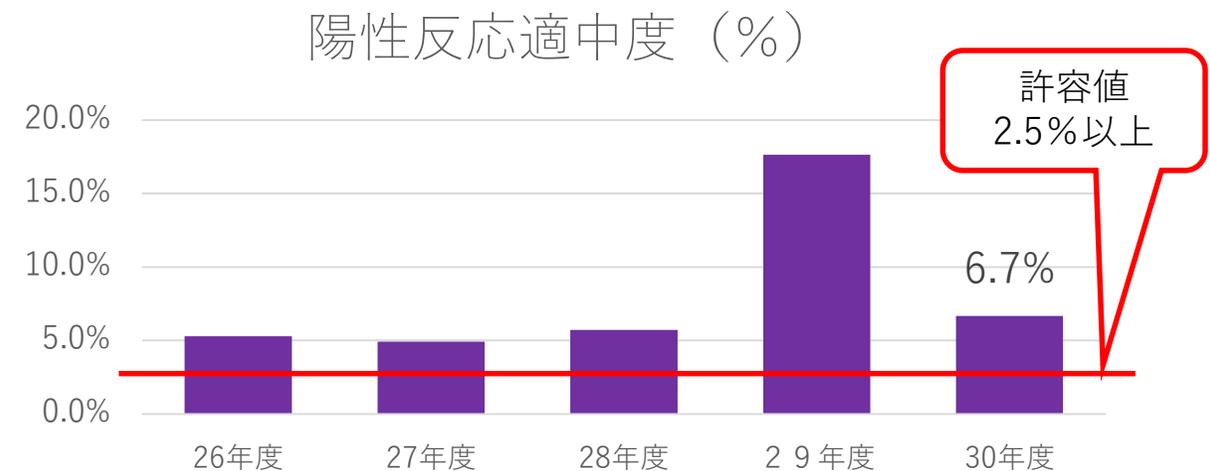
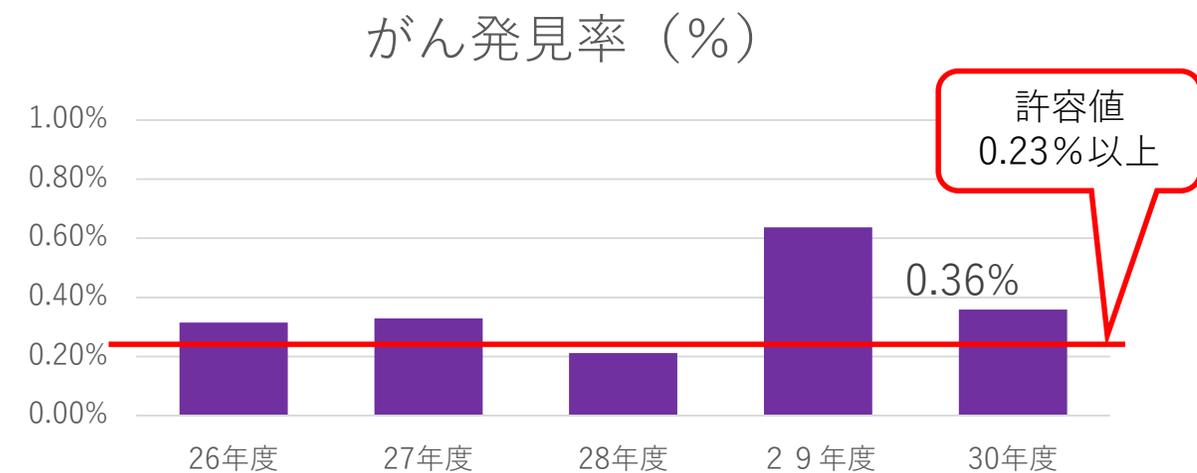
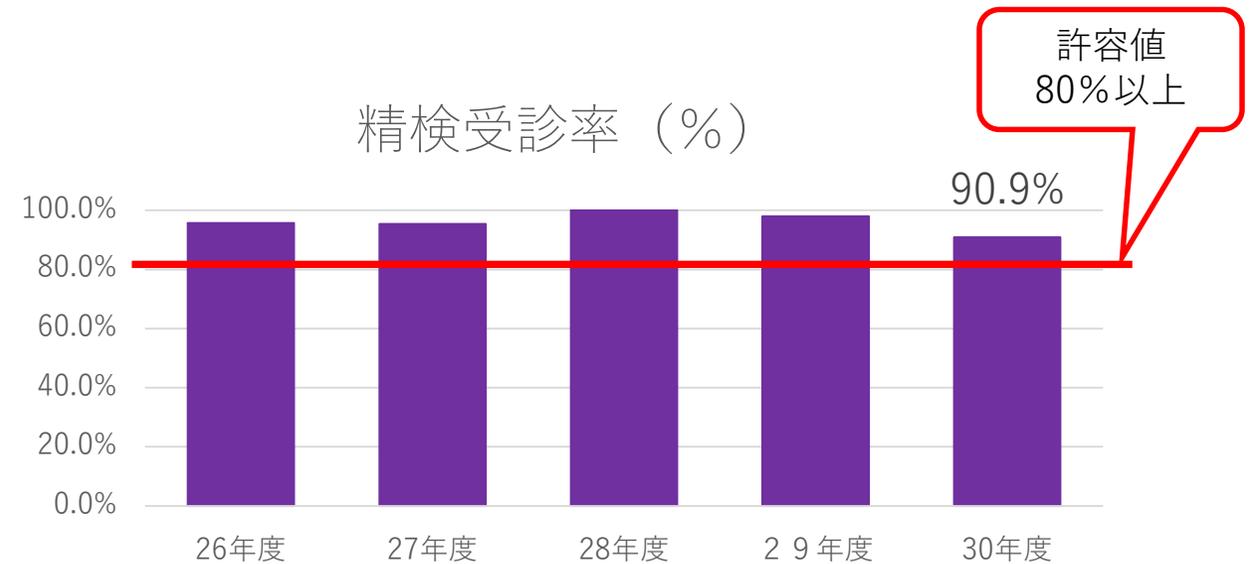
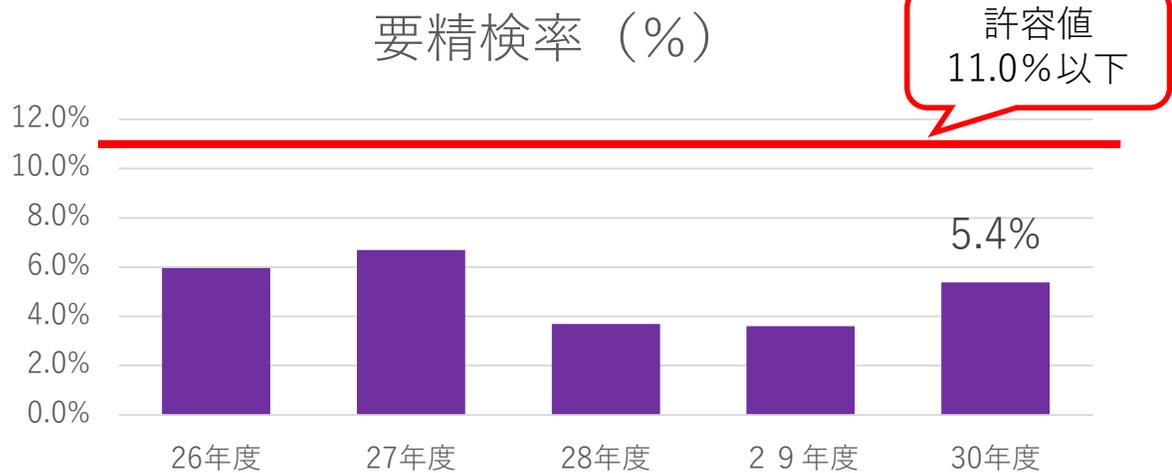
## がん発見率（許容値0.23%以上）



## 陽性反応適中度（許容値2.5%以上）



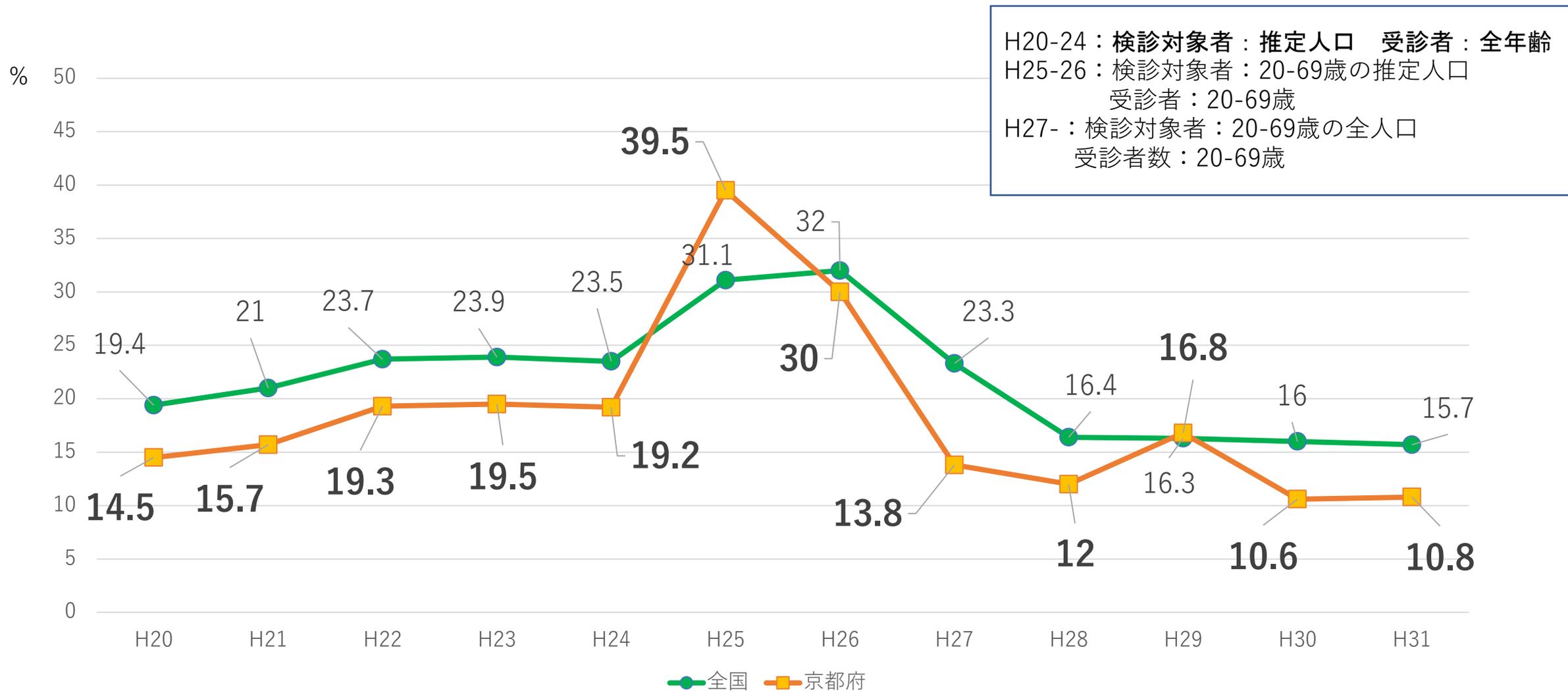
# H30乳がん検診 検診機関プロセス指標



# 5 子宮頸がん検診

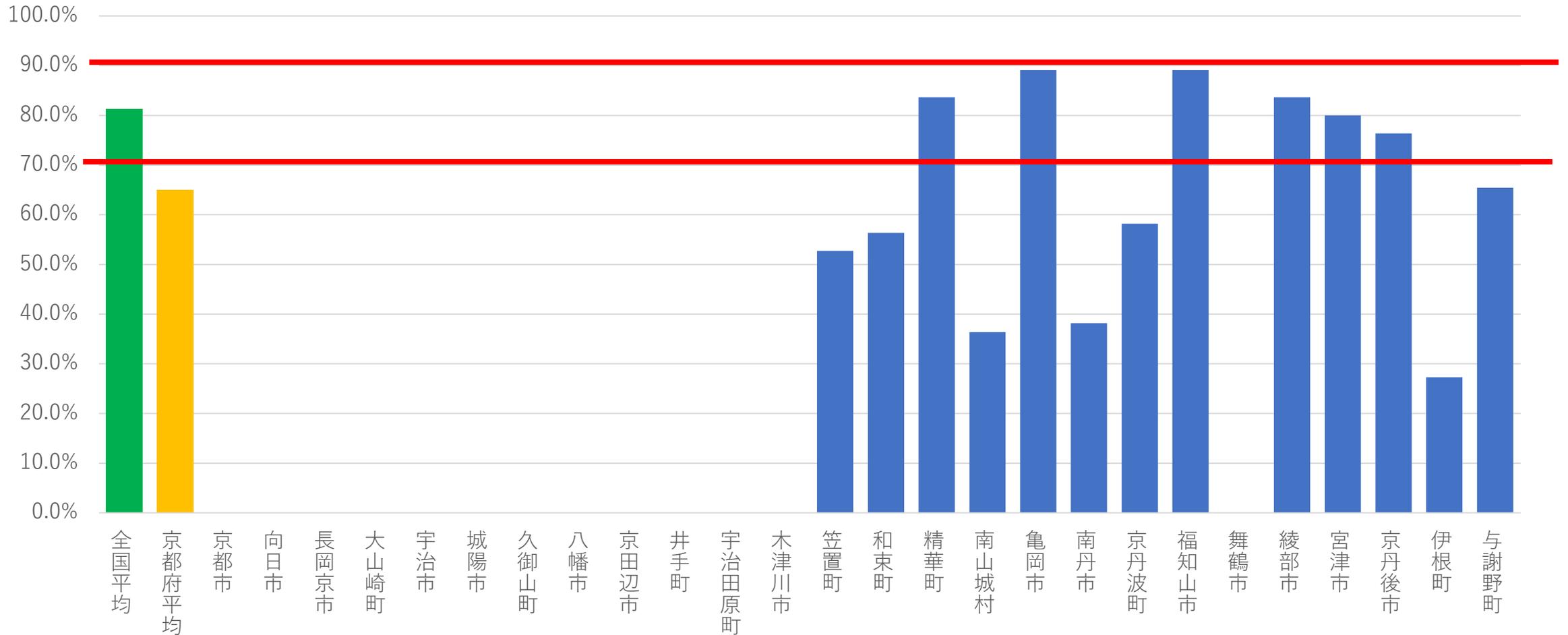
項目	内容
対象者	20歳以上
検診間隔	2年に1回
検診項目	問診、視診、子宮頸部の細胞診および内診
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	20～69歳の女性受診者。検診対象者は、同年代の全人口。
府内の状況（R3年度）	◆集団方式 13市町村 ◆個別方式 25市町村
H30年度受診者数とがん発見数（40～74歳）	集団方式（受診者数 <b>9,470人</b> 、がん発見数 <b>1人</b> ） 個別方式（受診者数 <b>42,115人</b> 、がん発見数 <b>9人</b> ）

# 子宮頸がん検診受診率の推移



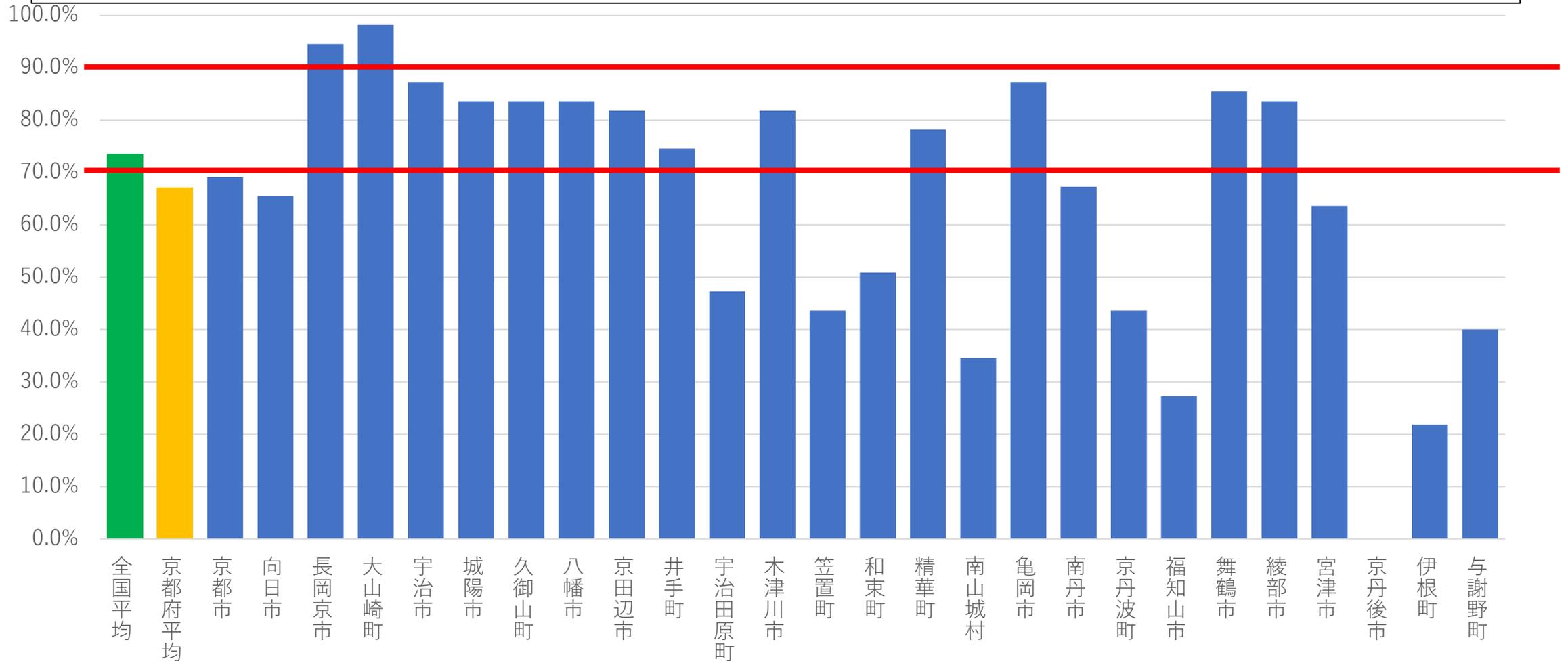
# R2子宮頸がん検診（集団方式） 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞

基準 A：100% B：90～99%（許容範囲内） C：70～89%（一部改善が必要） D：69%以下（改善が必要） E：未回答

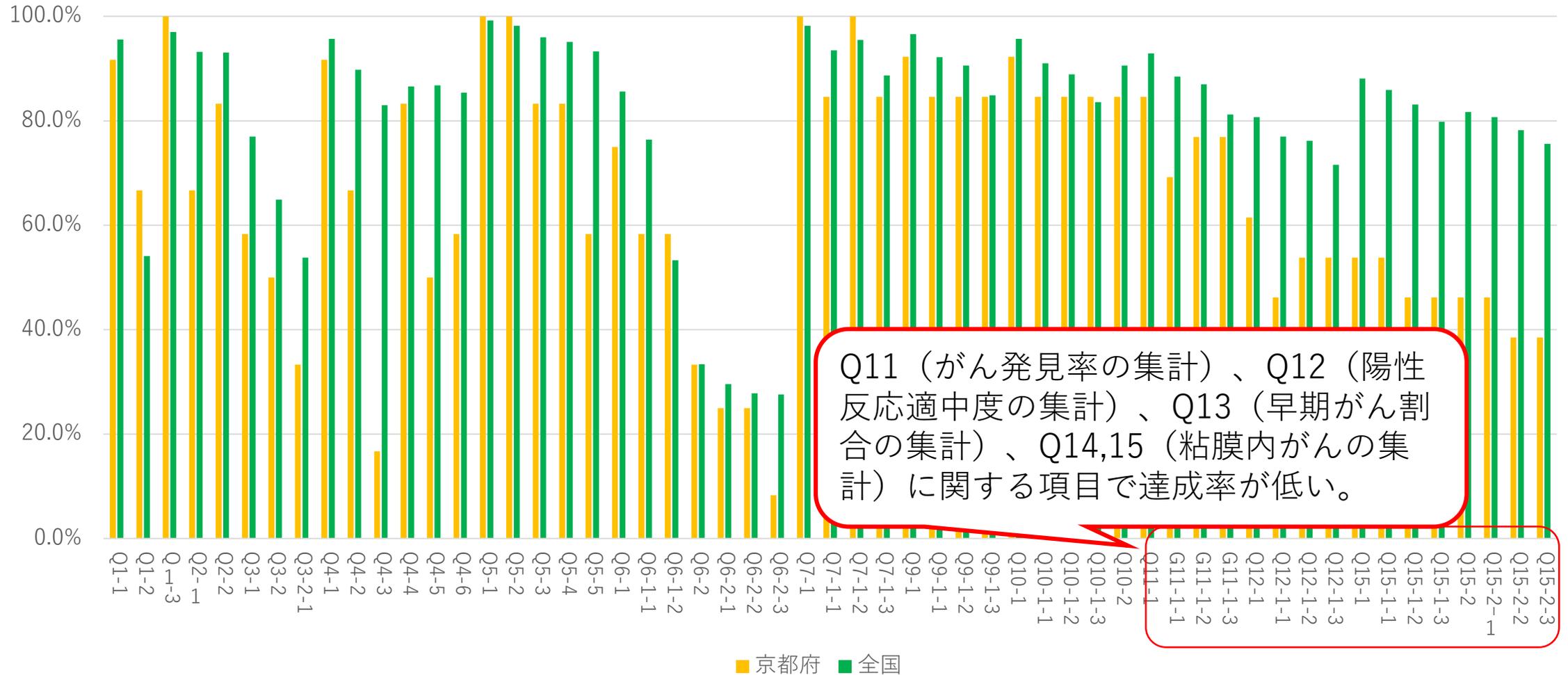


# R2子宮頸がん検診（個別方式） 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞

基準 A：100% B：90～99%（許容範囲内） C：70～89%（一部改善が必要） D：69%以下（改善が必要） E：未回答



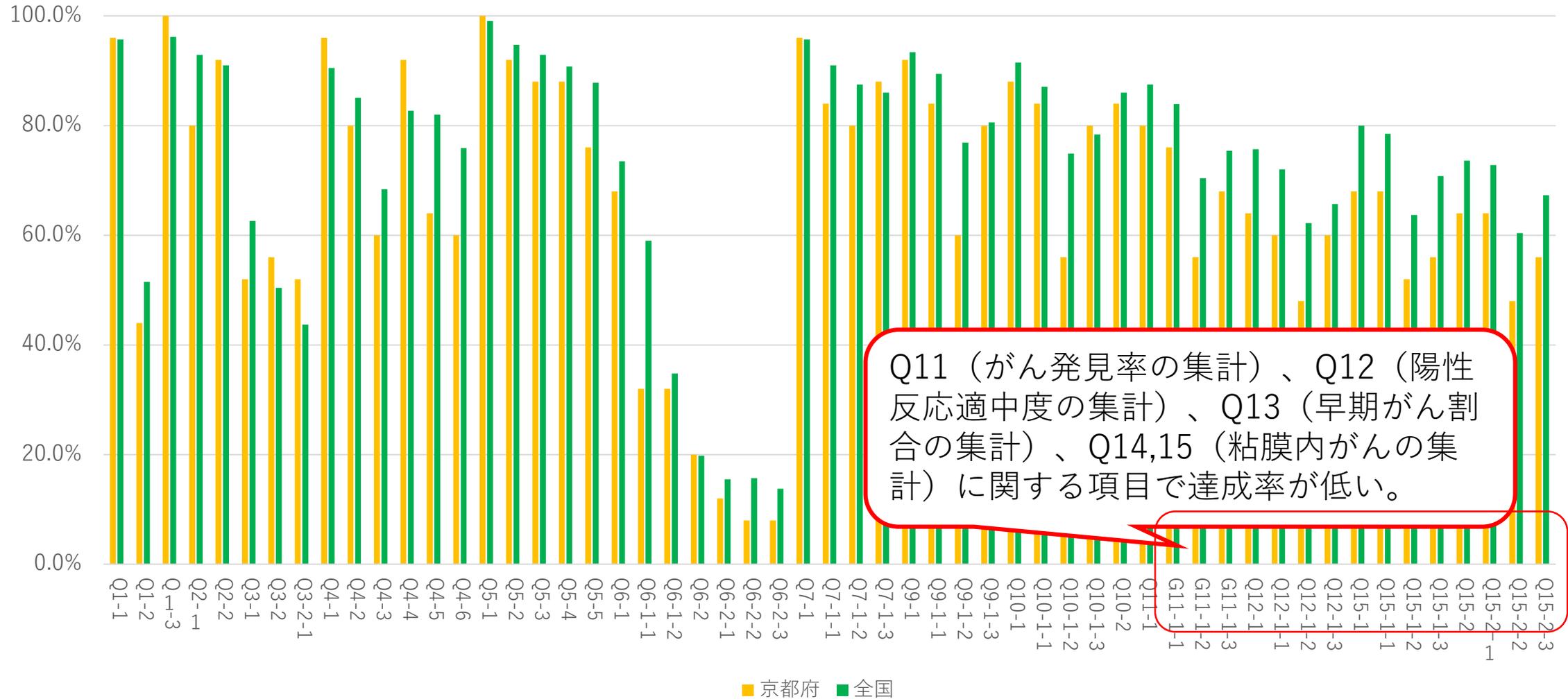
# R2子宮頸がん検診（集団方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>



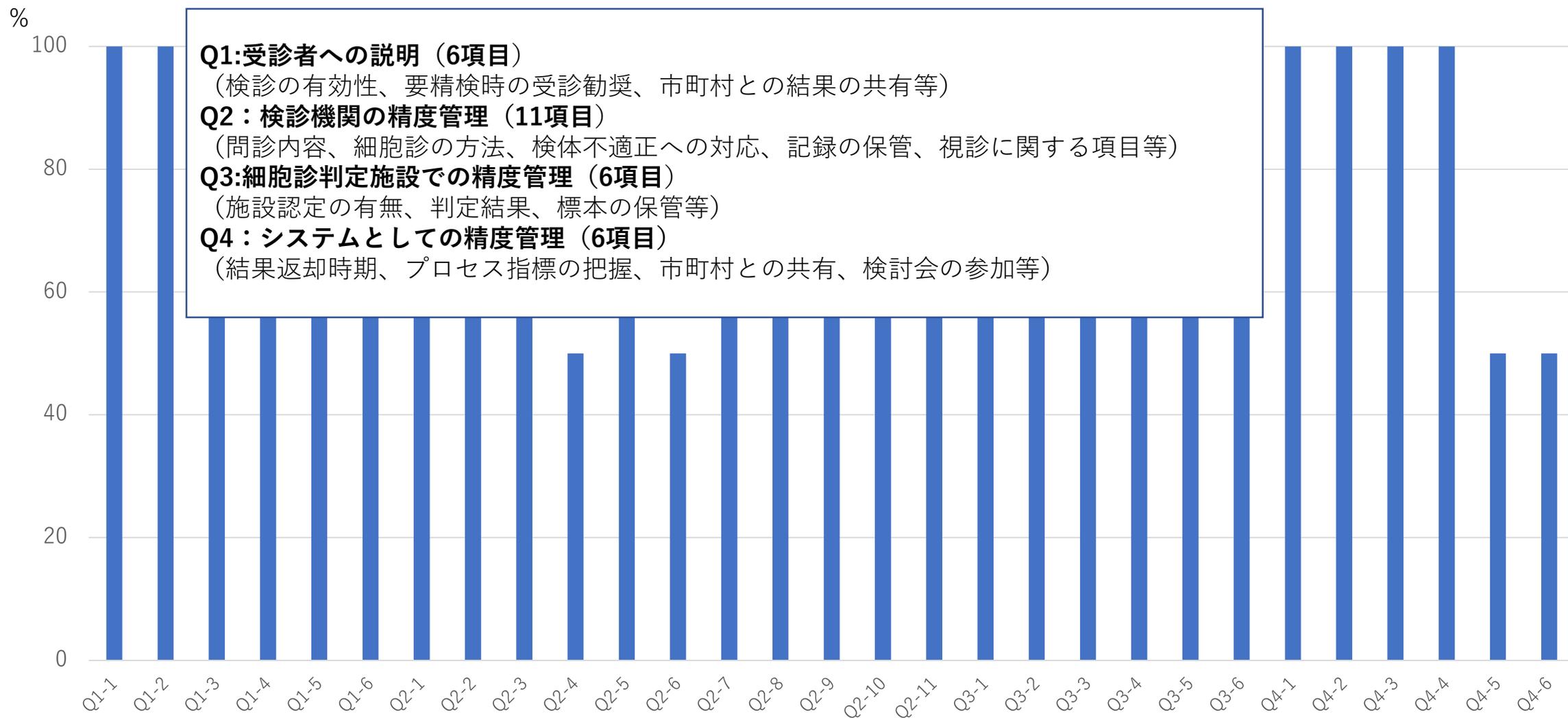
Q11（がん発見率の集計）、Q12（陽性反応適中度の集計）、Q13（早期がん割合の集計）、Q14,15（粘膜内がんの集計）に関する項目で達成率が低い。

Q11-1-1  
Q11-1-2  
Q11-1-3  
Q12-1  
Q12-1-1  
Q12-1-2  
Q12-1-3  
Q15-1  
Q15-1-1  
Q15-1-2  
Q15-1-3  
Q15-2  
Q15-2-1  
Q15-2-2  
Q15-2-3

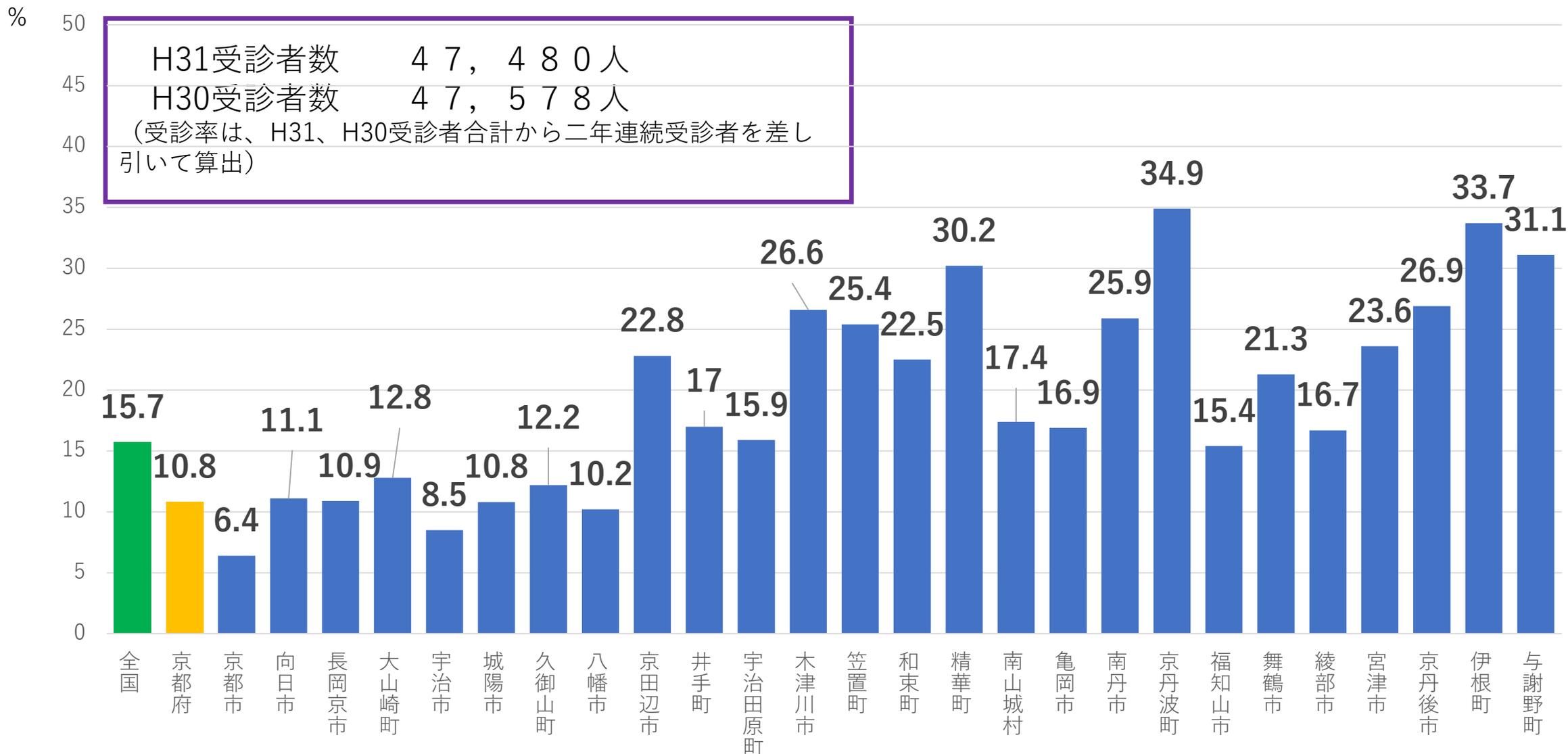
# R2子宮頸がん検診（個別方式） 市町村チェックリスト達成率<項目別>



# R2子宮頸がん検診 検診機関チェックリスト達成率



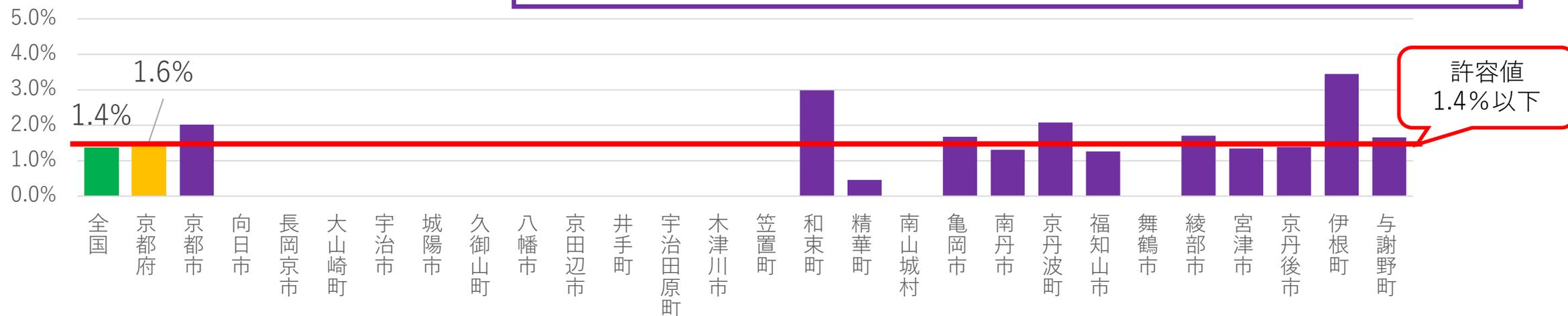
# H31子宮頸がん検診受診率



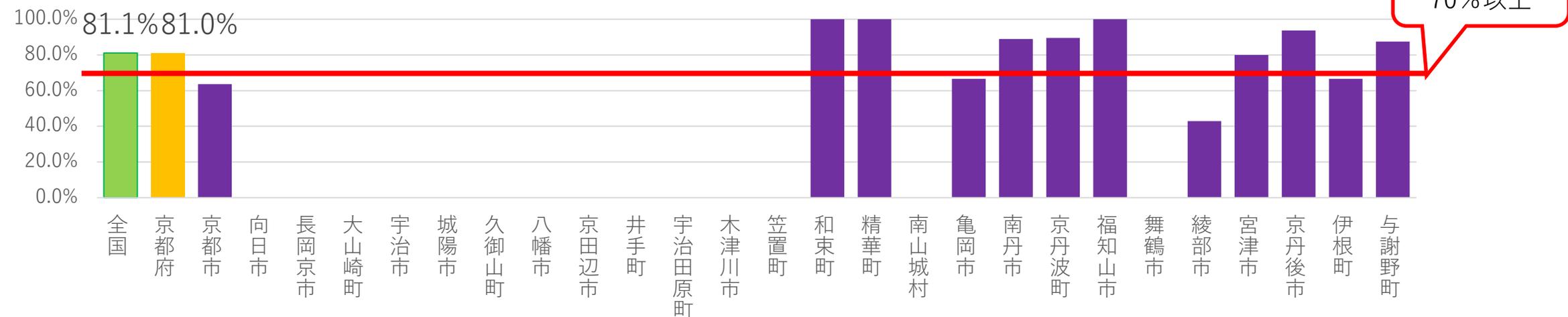
# H30子宮頸がん検診（集団）プロセス指標①

## 要精検率（許容値1.4%以下）

対象受診者数：9,470人 がん発見数：1人（40～74歳）



## 精密検査受診率（許容値70%以上）



# H30子宮頸がん検診（集団）プロセス指標②

## がん発見率（許容値0.05%以上）

対象受診者数：9,470人　がん発見数：1人（40～74歳）



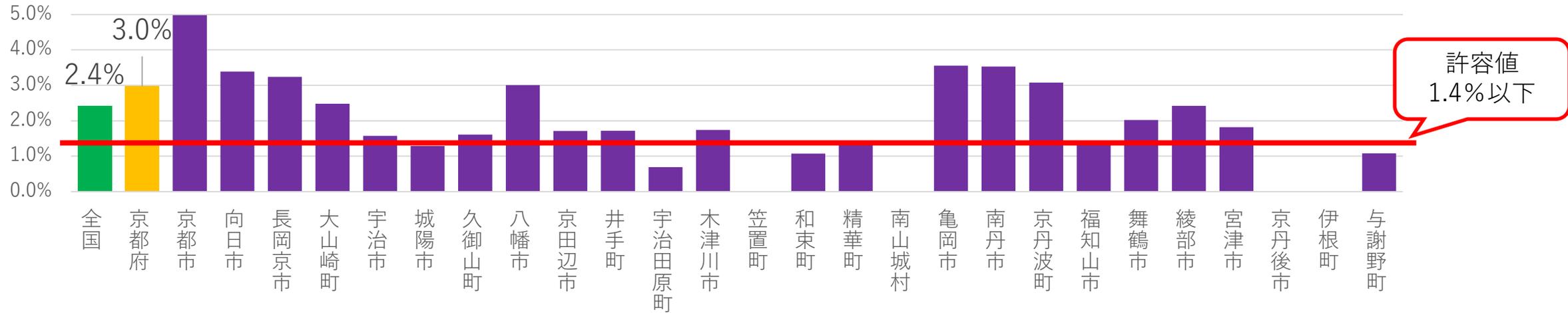
## 陽性反応適中度（許容値4.0%以上）



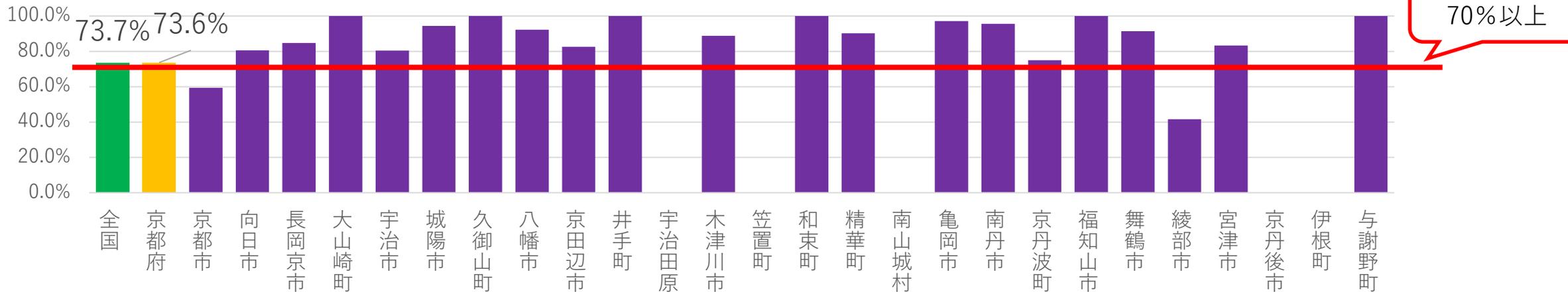
# H30子宮頸がん検診（個別）プロセス指標①

## 要精検率（許容値1.4%以下）

対象受診者数：42,115人 がん発見数：9人（40～74歳）



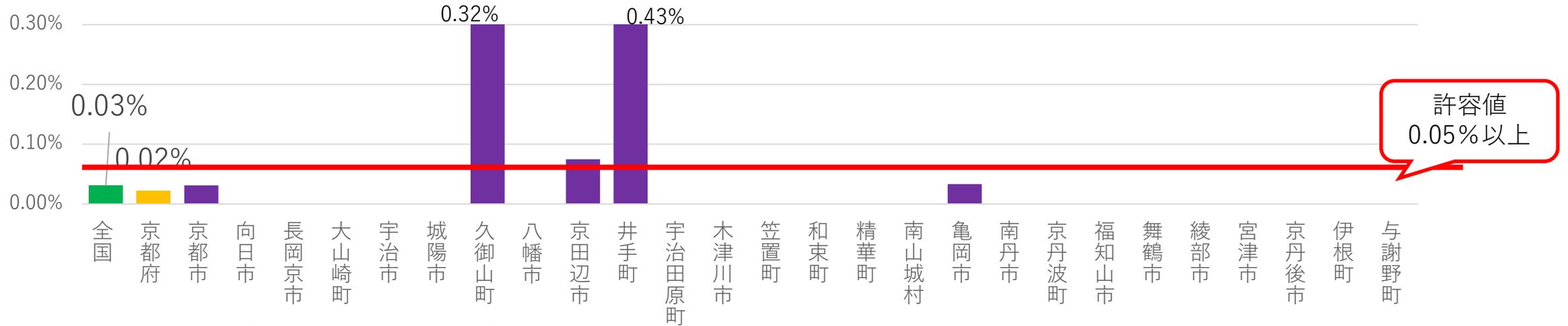
## 精密検査受診率（許容値70%以上）



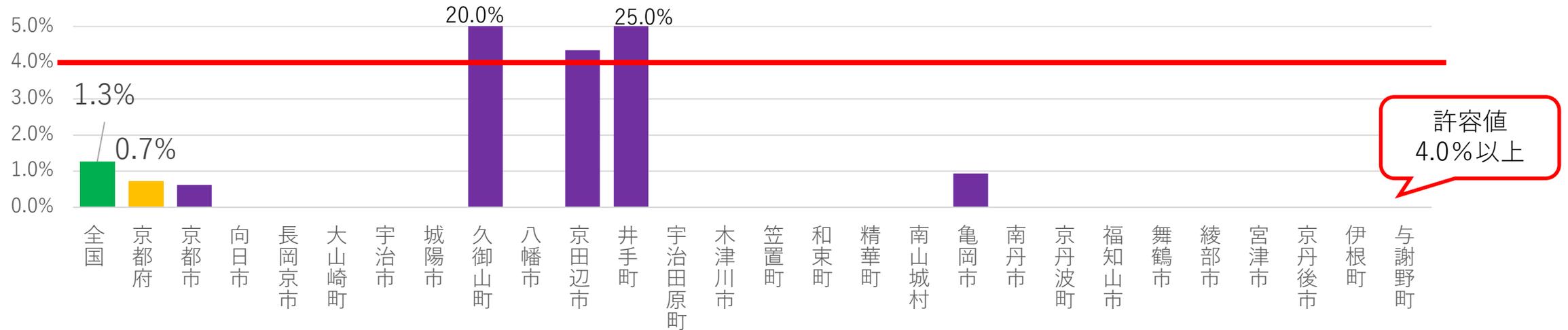
# H30子宮頸がん検診（個別）プロセス指標②

## がん発見率（許容値0.05%以上）

対象受診者数：42,115人　がん発見数：9人（40～74歳）

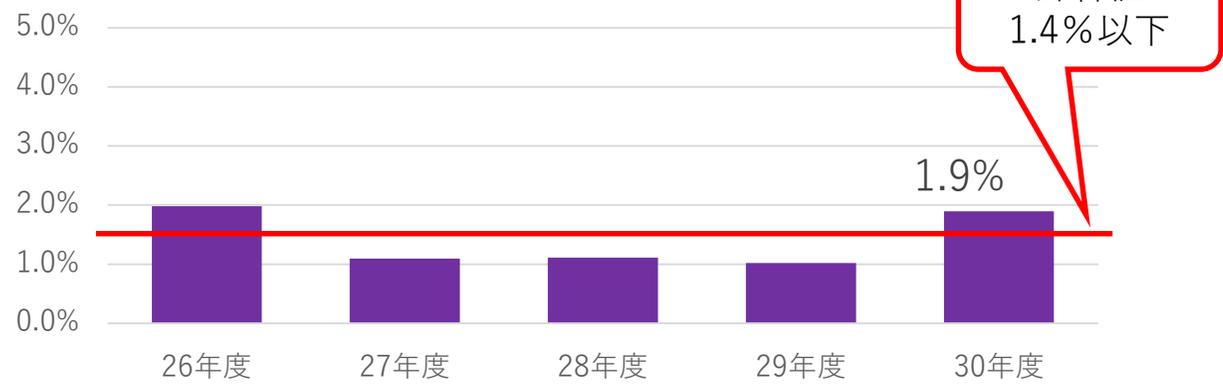


## 陽性反応適中度（許容値4.0%以上）

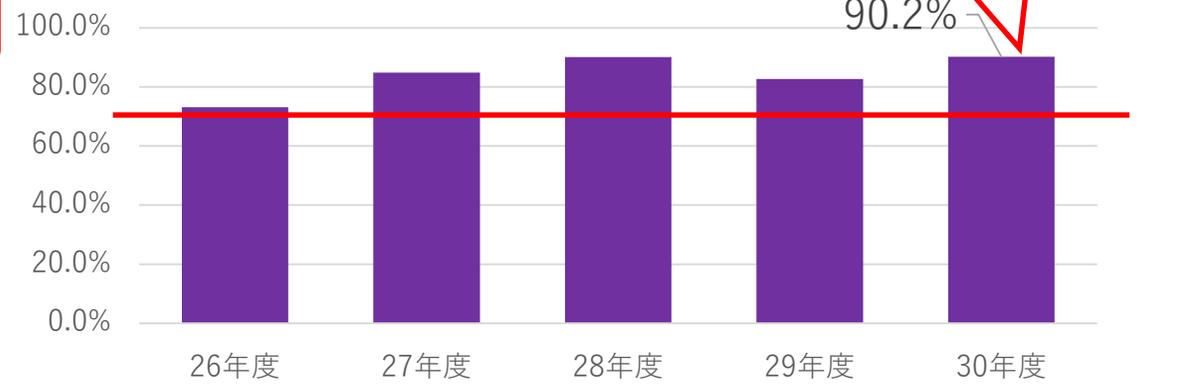


# H30子宮頸がん検診 検診機関プロセス指標

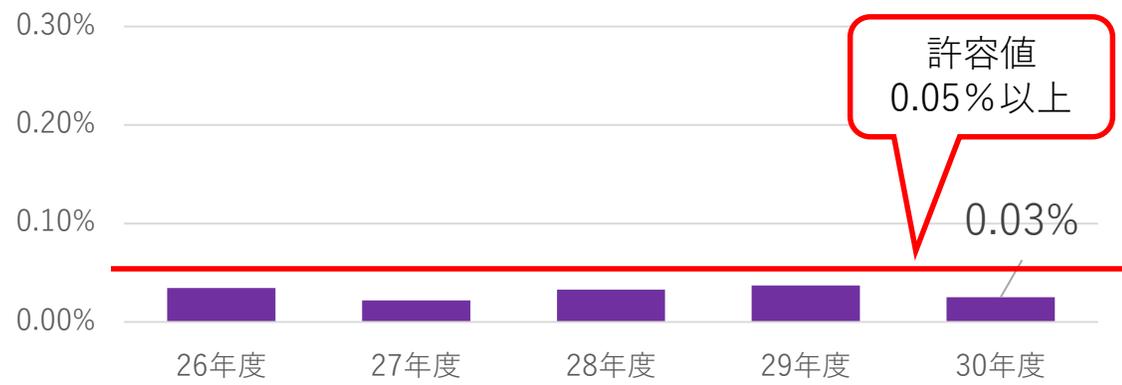
要精検率



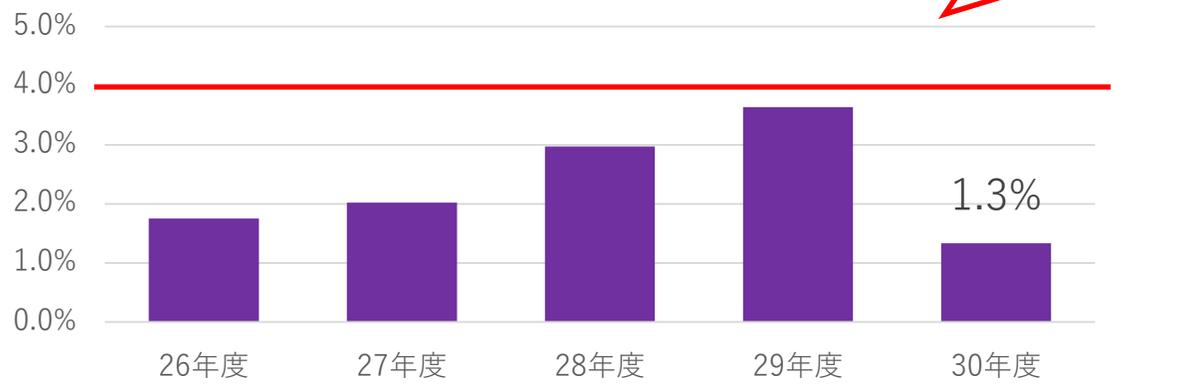
精検受診率 (%)



がん発見率 (%)



陽性反応適中度 (%)



< 出典 > 令和3年度京都府調べ

# 京都府のがん検診の状況（R2年度検診実施況）

R2年度	検査方法		検査方式		対象年齢				間隔
			集団	個別	20歳以上	30歳以上	40歳以上	50歳以上	隔年
胃がん	胃X線検査	25	24	1	0	0	25		4
	胃内視鏡	3	0	3	0	0	1	2	
肺がん	胸部X線 + 喀痰細胞診	25	25	0	0	0	25	0	0
大腸がん	便潜血二日法	24	19	16	1	0	23	0	0
乳がん	マンモグラフィ	22	18	19	0	0	23	0	3
	マンモ + 視触診	3	0	3	0	0	3	0	3
	エコー	1	1	0	0	1	0	0	1
子宮頸がん	頸部細胞診	26	13	24	26	0	0	0	19

※京都府内検診実施自治体数（N=26自治体）

※参考資料集2 P62-63 令和3年度市町村がん検診実施状況調査より

## <参考> 指針外の検診実施状況（R2年度検診実施況）

種別	検査項目	R1実施 状況	R2実施 状況	備考
胃がんリスク	ペプシノゲン・ヘリコバクターピロリ併用	5	4	個別方式で実施
	ヘリコバクターピロリ単独	1	1	集団方式で実施
前立腺がん	PSA検査	2 5	2 4	R 3 は 2 3 市町村が実施
肝臓がん	エコー	1	0	R2年度で全市町村廃止
子宮体がん	細胞診	3	0	R 2 年度で全市町村廃止
卵巣がん	エコー	0	0	
甲状腺がん	エコー	0	0	
口腔がん		0	0	
咽頭・喉頭がん		0	0	

※京都府内検診実施自治体数（N=26自治体）

※参考資料集 2 P62-63 令和3年度市町村がん検診実施状況調査より

# <参考>今年度のトピックス

## ●新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言を踏まえたがん検診における対応について

(通知文) <https://www.mhlw.go.jp/content/000777298.pdf>

- ・がん検診は不要不急の外出に当たらない。感染対策を実施した上で、安全に受診できるような体制を構築して実施

## ●がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針の一部改正

(通知文) <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000838643.pdf>

(指針全文) <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000838645.pdf>

- ・集団乳がん検診における医師の立ち会い不要化及びブレストアウェアネスの明記
- ・がん検診推奨年齢の明記
- ・がん検診における管理者の取扱いについて

## ●ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の今後の対応について

(通知文) <https://www.mhlw.go.jp/content/000875155.pdf>

- ・HPVワクチンの個別の勧奨について、基本的に令和4年4月から順次実施すること

